

## 「教会のうづも」

辰野キリスト教会 藤森牧男



この約束は、われらの主なる神の召しにあずかるすべての者、すなわちあなたがたと、あなたがたの子ども、遠くの者一同と共に、与えられているものである。使徒2・39

後継者の育成や次世代への信仰の継承が、教団の課題になっていますが、なかなか良い打開策がありません。実際、教会では子どもたちがどのように扱われているでしょうか。礼拝中、子どもが騒いだらいかがでしょうか。うるさいと思う大人は、その親が教会学校の教師の方を睨みつけるかもしれません。親は肩身が狭くなり、教会学校教師は礼拝中まで責任は負えないと思うことでしょう。

先日、高齢の婦人がひ孫ほどの小学生に、教会の中で走らないように諭している姿を見ました。視線を合わせてかがみ、「教会はお祈りし、お話を聞かせる所だから、走ってはいけないのよ。お友達とお庭で走って来たら、いかが」と。また、昼食の時、壮年たちがテーブルを囲んで食事をし

ながら、高校生に進路についてを話している様子を見ました。どの大学、学部に進むつもりか、将来どんな職業に就きたいかなどを上手に聞き出しながら、社会での実情を話し、アドバイスをしていました。高校生も真剣な顔で質問をしながら聞いていました。親がいるのに、教会学校の教師がいるのに、出しゃばってはいけないなどと思わず、教会のことも、教会みんなで育てるという姿勢の大切さをこうした光景を通して垣間見ました。

カトリックはじめプロテスタント主要教派では、「信じている両親の子どもたちを、洗礼によって共同体に受け入れる」ことによって、「教会の子ども」として育成されるべきだという信念が貫かれています。その目的でカテキズムが作られ、信徒の子女教育が行われています。私たちの教団では、幼児洗礼でなく献児式が行われてきました。献児式は両親が子どもを神様に捧げる式であり、幼児洗礼は教会が両親が信徒である子どもを受け入れる式であり目的が違います。教会学校の働きにおいて、子ども伝道が主目的のようになって、信徒子女の教育がおろそかになってきたきらいがあります。それは、教会での子ども（信徒子女）の位置づけが、明確でなかったことにあるように思っています。

# 牧羊者

## 目次

巻頭言	1
目次	2
教師養成講座「教会学校のリバイバルを求めて」	3
旧約⑨「詩歌」	11
神の国	41
十字架への道	65
牧羊ひろば（横浜栄光教会）	89
カリキュラム	93
「牧羊者」のご購読・ご利用について	94
おわりに	94

### 〔凡例〕

1. 原語について：ギリシャ語は〔ギリ〕、ヘブル語は〔ヘ〕、アラム語は〔ア〕で表記しています。
2. 礼拝メッセージ例の最後の「さんび」の略記について  
こ：「こどもさんびか」、こ改：「こどもさんびか改訂版」（以上、日本キリスト教  
団出版局）、ホ：「教会学校・日曜学校 子どもさんびか」（日本ホーリネス教団出  
版局）、イン：「教会学校さんびか」（インマヌエル教会学校部）、ふ：「ふくいんこ  
どもさんびか」、GS：「ふくいんこどもさんびか2 グローイング・ソング」（以  
上、日本児童福音伝道協会）、PW：「プレイズワールド」（リビングプレイズ）

# 「教会学校のリバイバルを求めて」

神戸大石教会 金井 望



## 序論 再生へのビジョン

二〇一六年9月27日から30日まで神戸で第六回日本伝道会議が開催され、約二三〇〇名の牧師・宣教師・宣教師・信徒が集まりました。一九〇五（明治38）年に日本伝道隊本部が神戸に設置されて以来、この地は私たちの群れの中心地となっています。

今回お迎えした講師は、英国のオールネーションズ・クリスチャン・カレッジで長年教鞭をとり、校長を務めたクリストファー・ライト博士でした。その神学校は、バックストン家の広大な敷地に建てられたものであり、欧州最大の宣教師訓練学校となっています。

今回の伝道会議のテーマは「再生へのビジョン」福音・世界・可能性」というものでした。

ライト博士は最初の講演で列王記下6章8〜23節を開き、——危機的な状況にあるとき、私たちの霊的な目が開かれて神の臨在と力を見ることが、そして私たちが神の民として今ここに在る理由を悟ることが大切だ——と語りました。

「恐れることはない。われわれと共に在る者は彼らと共に在る者よりも多いのだから」。

「主よ、どうぞ、彼らの目を開いて見させてください」。

「危機」は「危険」であると共に「機会」でもある、と言われます。この論文では、日本イエス・キリスト教

団の諸教会が今、教会学校活動において直面している危機を直視しつつ、神が私たちに示しておられるCS伝道の「ビジョン」を再確認する一助となることを願って、論考を進めます。

## 【ポイント】

- ① 日本社会に起こっている変化について、人口問題を中心として教会学校に関わる重要な問題を列挙します。
- ② 日本伝道の障壁となっているものを明らかにします。
- ③ 障壁を打ち破る伝道のアプローチを提案します。
- ④ 日本の地域社会で伝道ができるCS教師の育成訓練について提案します。
- ⑤ 教区やブロック、協力教会制度等を活用した、諸教会の協同による教会学校活動について考察します。

# 第一章 少子高齢化Ⅱ人口減少時代の教会学校

## 第一節 教会学校の現状

今年8月に行った兵庫教区ティーンズ・バイブル・キャンプに参加した生徒は25人でした。兵庫教区にある28教

会のうち生徒がキャンプに参加したのは11の教会だけでした。諸々の事情があるにせよ、かつてはほとんどの教会から、100人以上の中高生が参加していましたので、隔世の感はありません。

私たちの教団では、バイブルキャンプで救いの確信が与えられた人、受洗を決心した人、献身の志を与えられた人が大変多いのです。筆者も生徒として、あるいは教師として北海道、関東、大阪、兵庫でバイブルキャンプに参加し、特別な恵みをいただきました。キャンプミーツィングはホーリネス運動で重視されてきた活動です。ティーンズ・バイブル・キャンプの衰退は、教団・教区の将来に関わる重要な問題である、と筆者は考えます。

日本イエス・キリスト教団の「二〇一五年教会教勢一覽」のデータを分析してみます。

幼小科生徒在籍数・教会数	中高科生徒在籍数・教会数
10人以上	44
5人以上9人以下	27
1人以上4人以下	32
ゼロ・幼小科無し	25
合計	128
	合計
	128
	44
	21
	51
	44
	ゼロ・中高科無し

日本のプロテスタントで最大の教団である日本基督教団では戦後間もない頃には、一教会あたり100人近くのCS出席者がありました。ところが、二〇一四年度には一教会あたり8人に減少しています。現在、日本基督教団の一六四三教会のうち572教会、34・8%の教会がCS出席者ゼロまたはCS無しとなっています（『データブック』と略す。43頁参照）。私たち日本イエス・キリスト教団の教会学校活動も、それに近づいたのかもしれませんが。

近年、日本のプロテスタント教会全体のデータを見ると、約半数の教会は受洗者が無くて、残りの半数の教会で、一教会あたり約2人の受洗者を生み出しているという状況です（『データブック』52頁参照）。日本イエス・キリスト教団の「二〇一五年教勢一覧」によると、128教会のうち受洗者がいたのは67教会で（52・3%）、受洗者数の合計は164人でした。厳しい状況です。

少子高齢化の問題は、日本のプロテスタント教会においても深刻になっています。日本基督教団では二〇一四年の全信徒の平均年齢が62・9歳、70歳以上の割合が40

%以上になっています（『データブック』52頁参照）。子供が減ったことだけでなく、牧師やCS教師の高齢化と後継者不足も、重大な問題です。

## 第二節 著しい少子化と人口減少の時代

日本の総人口は二〇一一年から減少局面に入っています。国立社会保障・人口問題研究所によると、

二〇一〇年 一億二八〇六万人  
二〇三〇年 一億一六六二万人  
二〇四八年 九九一三万人  
二〇六〇年 八六七四万人  
このように推計が出されています。

二〇一〇年から六〇年までの五〇年間で四一三二万人、比率にして32・3%の減少が見込まれています。

この人口減少の直接的な原因は少子化です。

①わが国の年間の出生数は、第一次ベビーブーム期（一九四七～四九年）には約270万人でした。いわゆる「団塊の世代」です。そして「団塊ジュニア」と呼ばれる第二次ベビーブーム期（一九七一～七四年）の出生数

は、約200万人でした。しかし一九七五年以降、出生数は減り続け、二〇一五年は100万8千人となっています（厚生労働省の人口動態統計の年間推計）。

②合計特殊出生率（一人の女性が一生に産む子供の平均数）は、第一次ベビーブームのときには4・32でしたが、二〇〇五年には1・26まで下がりました。この著しい少子化の主な原因は、未婚化、非婚化、晩婚化、晩産化です。

少子化には経済的な事情が大きく影響しています。

①非正規雇用労働者は一九九四年以降、増加傾向にあります。二〇一五年の平均値で、役員を除く雇用者全体の37・5%を占めています。

②等価可処分所得（世帯の可処分所得を世帯人数の平方根で割って算出）の中央値の半分の額を「貧困線」と言い、これに満たない世帯員の割合を「相対的貧困率」と言います。厚生労働省が二〇一二年に行った国民生活基礎調査によると、貧困線は122万円、相対的貧困率は16・1%となっています。特に、世帯主が30歳未満の世帯では相対的貧困率が27・8%と高い値を示しています。

③貧困線以下で暮らす17歳以下の子供の割合を「子供の相対的貧困率」と言います。一九九〇年代半ばからこれが上昇傾向にあり、二〇一二年には16・3%になっています。ひとり親家庭の相対的貧困率は54・6%と非常に高くなっています。

④二〇一四年の婚姻件数は63万5千156件、離婚件数は22万6千215件となっており、結婚した夫婦の三組に一组は離婚しています。

このような状況で、若い女性は安心して子供を産み、育てることができるでしょうか。政府には、正規雇用を増やす。同一労働同一賃金を実現する。保育所を増やす——といった政策の推進が求められています。が、教会学校も、地域に生活する若い親子を支援するためにできることが、いろいろあるでしょう。

### 第三節 若者の地方圏から大都市圏への移動

人口の東京圏（埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県）への一極集中と「地方消滅」が国家レベルの大問題となっています。

① 地方圏から進学や就職の機会に恵まれていた大都市圏へと若者が移動するのは、戦後ずっと続いている現象です。国勢調査によると、東京圏の人口は二〇〇〇年から二〇〇五年までの5年間で約100万人増加しました。二〇一〇年から二〇一五年までの5年間では51万人増加しています。総面積で全国の3・6%しかない東京圏に、今や総人口の四分の一を超える三五〇〇万人弱が住んでいるのです。全国の大学生の四割が東京圏に集中しています。

② 東京圏では住居費が高額で、住環境は良好とは言えず、労働時間が長くて、通勤時間も長い。地方にいる親の子育て支援が得にくい。そのような子育てに不利な条件があります。全国の都道府県で最も合計特殊出生率が低いのは、東京都の1・13です（二〇一三年）。

地方圏では、若者が少なく、ふさわしい結婚相手はなかなか見つからない。東京圏では、若者が大勢いるけれども、結婚して家庭を持ち、子供を育てていくことができるか、不安がある——。そのような事情もあって、未婚化、非婚化、晩婚化、晩産化が進行し、少子化が進行しているのです。

筆者は昨年から兵庫教区結婚委員会で奉仕をさせていただいているのですが、——全国的なネットワークを持つ日本イエス・キリスト教団だからこそできる良い問題解決法がある——と思っています。恋愛・性・結婚・家庭・子育てに関して悩んでいる人たちのために、教会学校だからこそできる教育やケアがあります。

## 第四節 長寿は幸せか？

『データブック』は、少子化、超高齢社会、限界集落の問題が、大都市圏でも古い団地などですでに始まっていることを、指摘しています（94頁）。今後は地方圏だけでなく東京や大阪等の大都市圏でも少子高齢化が著しく進行する、と予測されています。

終戦後間もない一九四七年には、日本人の平均寿命は男性が50・06歳、女性が53・96歳でした。これが二〇一五年には男性が80・79歳、女性が87・05歳にまで伸びました。男性は世界三位、女性は世界一位の長寿です。医療の進歩や生活改善によって、日本人の寿命は百歳に近づくと言われています。「人生五十年」と「人生百年」で



は、人生観もライフスタイルも、大きく変わるのは当然でしょう。

長寿は幸せか？ 実はこれが大問題です。高齢者の単身世帯、いわゆる独居老人が増加しており、身元不明の無縁死や孤独死が増加しています。無縁社会の現実です。通夜や告別式等の宗教的な儀式無しで火葬場に直行する「直葬」が、関東地方では二割を占めています。

「終活」「エンディングノート」がブームとなっていますが、これこそキリスト教の出番です。教会学校を生涯学習の場として活用し、聖書的な死生学の教育を行うと良いでしょう。

## 第五節 地方教会消滅？

二〇〇九年に札幌で開催された第五回日本伝道会議で「地方伝道プロジェクト」が「全教会の課題としての地方伝道」というアピールを出して、過疎化の進む地方における宣教協力が急務であることを、訴えていました。

二〇一四年五月に日本創成会議（座長・増田寛也元総務相）が発表した「消滅可能性都市8%のリスト」は大き

な反響を呼びました。全国にある自治体の半分はこのままいくと将来、急激な少子化・人口減少によって破綻する、というのです。その基準は、二〇一〇年からの三〇年間に、20〜39歳の女性の人口が5割以上減少することです。

筆者が神学校を卒業して最初に遭わされたのは、北海道岩見沢市にある幌向小羊教会でした。その頃にお交わりをいただいた隣町のご高齢の女性牧師から、最近こんなメールをいただきました。

「炭鉱地帯は皆大変ですが、元奉仕した三笠市は人口が激減し、日本で二番目の小さな市になりました。1≡歌志内、2≡三笠、3≡夕張、4≡芦別。4までは炭鉱地帯です。夕張は福音教会が二個ありましたが閉鎖され、三笠、芦別、美唄は無牧です。

札幌に引越した元・三笠教会員が召されて、葬式に三笠から二人が参加しました。その時、札幌に住んでいる元・三笠教会員も参加したら、札幌の教会員より元・三笠教会員の方が多かったので、どちらの教会の葬儀か分からない程でした。

北は旭川から南は大分県まで全国に散らばって行



き、オーストラリアやカナダにも引越しました。時代の流れですね。私が岡山に引越した時、三笠教会は15人でしたが、今は4人。それでも毎週礼拝は守っている。何と感謝な事か！」

地方圏においては教会学校消滅、さらに教会消滅の危機に瀕しているところが少なくありません。これは、私たちの教団も例外ではないでしょう。私たちの教団の母胎である日本伝道隊は「未伝地伝道」という大方針を持っていました。一部の教派・宣教団が避けているような伝道困難な地方にも行って、果敢に伝道活動を展開したのです。

ですから、伝道が困難な地方圏にたくさん教会があることは、日本イエス・キリスト教団の素晴らしい特長です。地方伝道の喜びも悲しみも共有する「教会性を有する」「霊交互助」の教団が、私たちの教団です。

最近はいンターネットを使ったSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）が普及しています。これは、私たちのように全国的また世界的なネットワークを持つ教団には、大変有用なツールです。フェイスブックには、日本イエス・キリスト教団宣教局子ども伝道の働

きの一つとして「子ども伝道アイディアひろば」というグループがあります。全国の諸教会のCS活動を見て、教えられること、励まされることがたくさんあります。ご利用をお勧めします。

## 第六節 リバイバルの炎よ、再び燃え上られ

バックストン師の高弟・大江邦治師が語られた逸話を紹介します。

バックストン先生が松江の赤山で義塾を開かれておった時分のことです。先生は股引きをはいて、麦わら帽子をかぶり、日本人が着るような服装をして、おっしゃった。

「みんな、野外伝道に行こう」

笹尾先生も米田豊先生も私も、みんな若かった。バックストン先生は、私らを連れて毎日のように、松江の町に伝道に行っておられました。

ところが、ある時、20人近くの子どもたちが、袋の中に石や砂を詰めて、私らに投げってきたんです。

わしゃ、もうびつくりして、ほんと泡食って逃げた。結核を患ってただけども、身の危険を感じて、もう無我夢中で逃げた。若い人たちはみんな逃げたんです。

ところが、バックストン先生は、ただひとり、じつとその砂煙の中に立っていらつしやいました。そして、両手を挙げて、涙を浮かべて祈られました。

「どうぞこの松江の人たちを救いたまえ」

「この何も知らない子どもたちを救いたまえ」

本当にキリストの霊に満たされた人の姿を見ました。

(山田春枝著「ステパノの殉教」月刊ペラカ二〇一三年三月号 第11号11〜12頁)

松江の人々を愛し、とりわけ子供たちを愛して、祈りつつ伝道に励んでおられたバックストン師の姿が、よくわかります。地方伝道は松江バンドのDNAなのです。

バックストン師は、山陰の松江に拠点を置いて宣教活動をした最初の10年間、聖公会松江基督教会の司祭として牧会をして、会堂建築など教会の発展に尽力しました。バックストン師が最初に洗礼を授けた5人のうちのひとり永野武二郎は、聖公会の聖職者となり、松江基督教会

で40年以上、牧師を務めました。

牧会をしながらバックストン師は松江の赤山で、超教派的に大勢の弟子たちを養い、訓練し、各地に派遣して「小さき群」を多数生み出しました。その果敢な地方伝道は、日本伝道隊の「未伝地伝道」に発展して、全国各地に拡大していきました。

折しも、二〇一五年から『バックストン著作集』の刊行が始まり、二〇一六年にはパジェット・ウィルクス著『救霊の動力』の改訂増補版が発行されました。これらの良書を精読して、私たちもその教えを実践しましょう。リバイバルの炎が再びこの日本に燃え上がることを、信じて共に祈り、CS伝道に励みましょう。

「ただ、聖霊があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となるであろう」。

(使徒一・八)

(続く)

# 聖書 詩篇121・1～8 テーマ わが助けはどこから来るか

序論

(石田高保)

日本人は一年の内でも元旦をおごそかで清らかなものとして大切にしてきました。日本人クリスチャンである私たちも元旦に父なる神様を礼拝して新しい年に臨むという美風を受け継いできました。今日は新年にふさわしく創造主なる神様を心いっぱい礼拝したいと思います。

## 一、安心の土台

詩篇には大自然を創造した神様を賛美するものが少なくありません。その偉大さに圧倒されて自然そのものを神として拝んだり、神格化したりすることは、古今東西、当たり前のように行われてきましたし、人間的には極めて説得力のある営みです。しかし聖書を授けられたイスラエルは、その強力な誘惑を退けて、自然を創造された見えない神様へ目を向けることに曲がりなりにも努めてきました。目に見える力強い現実を超越して見えない方を当てにしようとする信仰の営みは、勇気の要るものです。神様は見えないので、信仰者といえども何らかの困った状況に陥って

いる場合は、どのようにお頼りすればいいのかわからなくなることもあるのはやむを得ないことです。そのような時、この詩篇は、「山にむかつて目をあげる」と言って、その山ばかりか「天と地を造られた主」を思い見るよう勧めます。この山はシオン、すなわち神殿をいただくエルサレムのことだと考えられます。山と言いながら実は主なる神を指しているわけです。見るべきお方、頼るべきお方は「天と地とを造られた主」です。預言者も「目を高くあげて、だが、これらのものを創造したかを見よ」と叫びます(イザヤ40・26)。神様は見えなくても、被造世界の森羅万象に目を留めるとき、目に見える何ものよりはるかにまさって確かで偉大な神様にお頼りしようという思いが湧いてくるのではないのでしょうか。実に「目に見える望みは望みではない」(ローマ8・24)と言えます。

## 二、安心の根拠

「あなたを守る者はまどろむことがない。見よ、イスラエルを守る者はまどろむこともなく、眠ることもない」と神様が眠ることなく信仰者を守って下さることが強調されています。私たちが眠っている間も神様は寝ずの番をしておられるとは、何と驚くべきこと、また安心なことでしょう。

うか。「親おもう心にまさる親ごころ」と吉田松陰の歌にあります。天のお父様は24時間365日、私たちを例外なく見守り、心配し、あの手この手で関わっていて下さっていることは、私たちが神様を思う思いとは比べようもありません。「このような知識はあまりに不思議で、わたしには思いも及びません」(詩139・6)と詩篇の記者と共に感嘆するばかりです。

〈昼は太陽があなたを撃つことなく、夜は月があなたを撃つことはない〉、真夏の太陽が私たちの皮膚を射るような、刺すような感じがするのはお互い経験するところでしょう。しかし主は自然の脅威からも私たちをしつかりガードして下さることを忘れないでいたいものです。たとえ天変地異に見舞われることがあったとしても、それらをはるかに凌駕する天のお父様に目をとめれば、揺るがぬ平安に覆われるのではないでしょう。

〈主はあなたを守って、すべてのわざわいを免れさせ〉ここまで言い切っている背景には、神様への絶対的な信頼があるからでしょう。たとえそうでない事態が起きたとしても、「わたしはあなたにより頼みます、信頼します」という信仰告白になっています。

〈主は今からとこしえに至るまで、あなたの出ると入るとを守られるであろう〉「行くにも帰るにも」(新改訳)守って下さるのであって、片道だけではないということです。一旦家を出たら、その全ての行程に主の見守りと御手が伸べられています。また「わたしがあけぼのの翼をかつて海のはてに住んでも…あなたの右のみ手はわたしをささえられます」(詩139・9-10)とあって、主が信じ依り頼む者にトコトン真実なお方であることは疑いの余地がありません。ちょっとした買物にも、長距離の運転にも、何日もわたる出張にも、主の守りが途切れることが一瞬もないとは、この世にはない安心です。さらにこの守りは〈今からとこしえに至るまで〉あるので、私たちの生涯を通じて途絶えないという保証です。

### 結論

主により頼む者は決してはずかしめられることがなく、<sup>とこしえ</sup>十重二十重と人生のあらゆる領域において守られているという大安心を土台として生きることができます。たとえ不可抗力で災いを身に受けることがあったとしても、それは主の御手の中で最小限にとどめられたと信じ受け取ってまいりましょう。

## 研究資料

(宮澤清志)

この詩篇は、「都上りの歌」(詩篇120篇～134篇)と呼ばれる歌の一つである。イスラエルには、昔から三大祭(過越の祭、七週の祭、仮庵の祭)があり、その際には多くのユダヤ人がエルサレムに詣でる風習があった。これらの歌は、その際によく歌われた歌だと思われる。

## テキスト

この詩は前述したように「都上りの歌」の中の一つである。この詩の背景としてはいくつかの可能性が指摘されている。たとえばエルサレムの都に出かけるときの歌であるという可能性もあるし、また都への途上にある歌という指摘もある。また都からの帰途にある中で歌われたという可能性もある。それらの可能性は、特に1～2節をどのように理解するかによって様々な立場がある。

## 1 わたしは山にむかって目をあげる 「山」は直訳すると「あの山々」となる。

この詩の作者はある特定の「あの山々」を見上げる位置にいたのであるかと推察できる。

では、この作者はどこに立ってこの詩を読んでいるのであろうか。一つの理解は聖都エルサレムの間近から

山々を見上げる理解である。巡礼の旅が終わりに差し掛かるころ、シオンの山々を見上げつつ読んだ歌であるとする理解である。もう一つの理解は、聖徒エルサレムの都から遠く離れた場所に立ちつつ山々を見上げる理解である。両者の理解の仕方によって、1～2節の読み方が異なってくる。**わが助けは、どこから来るであろうか** この読み方は、前述のこの詩人の立ち位置によって異なる。前者を採れば、この言葉は疑問文ではなく、すでにその答えを知っている言葉となり、何の疑いもなく2節へと続く。一方後者を採れば、詩人は山々を見上げつつ、現実の不安とおののきの中にあつてこの言葉をつぶやいたものと考えてもできる。

## 2 わが助けは、天と地を造られた主から来る

山々に向けた作者が必然的にたどり着いた結論である。不安や問題のある中で、まさに「わが助け」は、「天地を造られた主」から来るのである。主は無から有を創造される方であり、詩人の不安をも吹き消す力を持っておられるお方なのである。

## 3～8 1～2節では、主語は「わたし」であるが、3

～8節ではその主語は「あなた」へと変化する。したがっ

て、3節からは、「わたし」である巡礼者を送り出す者が、その出発に際して巡礼者に贈った祈りの言葉とみることができ。また巡礼の道中であれば「わたし」と「あなた」の交唱ともとれる。

**3 動かされる** より具体的には「よろける」こと。よろけるとは、足が動くこと。イスラエルのごつごつした、そして細い山道においてよろけることは、死を意味していたと考えられる。その意味で、主が私たちの足を守って下さることは信仰者にとって大きなことである。**あなたを守る者** 主は信仰者を個人的に守って下さる。

**4 イスラエルを守る者** 主は信仰者個人を守って下さるばかりでなく、彼の属する共同体を守って下さる方でもある。**まどろむこともなく、眠ることもない** 信仰者は、時として眠りこけ、また眠りをむさぼりさえしてしまふ（マタイ26・40、イザヤ56・10）。しかし、主は常に働いて下さり、信仰者を「守る方」である。

**5 右の手をおおう陰** 陰とは一般に守護を意味する言葉である（エレミヤ48・45、詩篇91・1）。右側に守護者がたっていて下さるということであろう。しかし、この「右の手」とは、単なる右側ということではなく、全身を意

味する言葉である。

**6** この節は、一日中人を脅かすものについての記述である。**昼は太陽があなたを撃つことなく** 日中の、熱射病を起こすほどの強い日差しのことであろう。**夜は月があなたを撃つことはない** この当時、「夜」の「月」は一種の熱病やてんかんを引き起こす原因と考えられていた。

**7 あなたの命を守られる** この「命」は単なる肉体的な生命ではなく、精神的にも霊的にも、生活におけるすべてを含んだ「命」である。主は私たちのすべてを守って下さる方なのである。

**8 今からとこしえに至るまで** これまで述べてきた生活全般にわたって、という、いわばこれまでの締めくくりの言葉。**出ると入る** 「行くにも帰るにも」（新改訳）、「出で立つのも帰るのも」（新共同訳）。巡礼の旅の全道中において、という意味か、もう少し拡大して、どこに行っても、という意味にも解釈できる。

**参考図書** 石黒則年「詩篇（73～150篇） 新聖書講解シリーズ 旧約12」、鍋谷堯爾「詩篇を味わうⅢ」（以上のちのことば社）、他



## 聖書

詩篇121・1～8

## タイトル

助けてくださる神様

## 暗唱聖句

わが助けは、どこから来るであろうか。

わが助けは、天と地を造られた主から来る。

詩篇121・1～2

## 目標

助けと守りが神から来ることを覚えつつ、一年の歩みを始める。

## 導入

(飯田勝彦)

主の二〇一七年、明けましておめでとうございます。昨年は、皆さんにとつてどのような一年でしたか？ また新年、どのような思いでスタートしましたか。今年も、生きておられる神様が、皆さんに素晴らしいことをしてくださると信じます。今年も変わらない愛をもって導いてくださる神様に心を留めましょう。

## 不安なときこそ顔をあげよう

1節に「わたしの助けは、どこから来るであろうか」とあります。この詩篇を書いた人は、どのような状況、どのような気持ちでいたでしょうか？ 助けを求めていますから、不安な状況に置かれていることが分かります。

不安の中で辛い思いをしていたでしょう。

神様を信じたら苦しいことや悲しいこと、不安なことがなくなるわけではありません。イエス様は「あなたがたは、この世ではなやみがある」(ヨハネ16・33)と言われました。ですから、生きている限りは、たくさん悩みが苦しいことがあります。この詩篇の著者は、不安なときに何を見えていますか？ 山ですね。イエス様はあるとき「空の鳥を見なさい。野の花を見なさい」と語られ、続けて「この鳥を養い、野の花を綺麗に装われる神様が、人間に配慮されないことはありませんよ。だから何も思いつく必要はありません」と語られました。私たちは不安な時、ついつい不安なことばかりに目が留まり、だんだんと頭が下がってしまいます。不安なときこそ、顔をあげて神様が造られた自然を見ましょう。

## 神様に助けを呼ぼう

不安の中にあるこの著者は、顔をあげました。すると、そこに山が見えたのです。すると、この山を造られた神様を思い出すことができました。神様は山だけではありません。天と地のすべてを造られました。造られたということは、すべてを知り支配しておられるということと



す。その神様にこの詩篇の著者は心を向けて「神様が助けてくださる」と確信したのです。

聖書を読んでみると苦しいときや悲しいとき、大きな壁にぶつかつたとき、多くの人が神様に助けを求めて叫んでいます。同じ詩篇34篇には「正しい者が助けを叫び求めるとき、主は聞いて、彼らをそのすべての悩みから助け出される。正しい者には災が多い。しかし、主はすべての中から彼を助け出される」と記されています。

天地を造り私たちをも造って愛してくださる神様は、私たちのすべてを知っておられます。また、私たちの必要のすべてを知ってそれに応えてくださいます。

ですから、遠慮せず「神様、助けてください！」と大胆に叫ぶことができます。神様は、皆さんが神様を頼りにすることを喜ばれます。特に不安で辛いとき、神様に助けを叫びましょう。

### 神様の助けを分かち合おう

3〜8節には、不安の中にいる人に「主はあなたを守って、すべての災を免れさせ、またあなたの命を守られる」（7）と励ましています。これは、神様の助けを体験していないと言えない言葉です。

皆さんもテストで難しい問題をクリアしたとき、同じ問題で悩んでいる友だちに「大丈夫だよ。」と同じ気持ちになつて励ますことができるでしょう。

神様から助けていただいた体験をするなら、辛い思いをしている人に「神様は、必ずあなたを助けて下さるから、神様を信じて助けを求めよう」と伝えることができます。また、それを同じ体験をした人と一緒に分かち合うことができます。これは素晴らしい恵みです。

### まとめ

皆さんは、これまでどのようなときに神様に助けていただきましたか？ 悩んでいるとき神様はあなたの友だちを通して慰めてくださったでしょう。悩んでいるとき神様はみ言葉を与えてくださったでしょう。振り返ってみると、たくさんあると思います。今年も私たちを助けてくださる神様を仰ぎ信頼して歩みましょう。そして、助けてくださる神様を伝えていきましょう。

♪主がわたしの手を♪（ホ89、PW97、新聖歌474）

# 聖書 ヨブ1・1～22 テーマ 試練の中の賛美

## 序論

(高橋頼男)

ヨブ記は旧約の中でも異彩を放っています。ヨブという義人の受けた苦難について記され、全編、友人たちとの論争やヨブの独白が長々と続きます(3章～42章)。それらを通し、義人がなぜ苦難を受けるのかという人生の不可解、最大の疑問・難問が取り扱われているのです。1章～2章は、この命題にかかわる問題の提起です。ヨブは神を畏れる正しい人でしたが、サタンの挑戦により、神が許された試練に会い、愛する家族、全財産を一瞬にして奪われてしまいます。しかし、ヨブは、「主が与え、主が取られたのだ。主のみ名はほむべきかな」と告白し、神の前にそのくちびるで罪を犯しませんでした。

## 一、神が許される義人の苦難(1・1～2・13)

義人ヨブの経験した苦難はとても理解しがたいものです。なぜ、神の前に正しく生きる者に理不尽きわまりないことが次々起こってくるのか。義なる神はなぜそれらをお許しになるのか。しかも、神は沈黙されその理由を

お示しになりません。せめて、苦難の意味を少しでも知らされたなら、神を信じて耐えることも出来るかもしれません。しかし、わけの分からない苦難の連続は、まことに耐え難いのです。「主よ、いつまでなのですか。とこしえにわたしをお忘れになるのですか。…いつまで、わたしは魂に痛みを負い、ひねもす心に悲しみをいだかなければならないのですか」(詩篇13・1～2)。悪者は滅び、正しく歩む者は祝福を受けるといふ、旧約聖書の価値観や人生観を超えた課題が提示されているのです。

## 二、神の主権(1・21)

次々と襲う苦難に耐えながら、ヨブ自身が答えを出したのは、自分の人生の一切の出来事に「神の主権」を認めることでした。「主が与え、主が取られたのだ。主のみ名はほむべきかな」。人生の主人公は「私」ではなく「主」です。人の生き死にを含め、人生の決定的な場面で人間はあくまでも受け身なのです。そのように告白するヨブの信仰はまことに驚くべきものです。目の前で次々に起こった悲惨で悲痛な出来事のただ中に神を認め、ひたすら生ける主を崇めているのです。ヨブの経験した試練を改めて考えて見るなら、ヨブの告白は人間中心の信

仰ではとても推し量れません。ヨブの妻のように「あなたはおも堅く保って、自分を全うするのですか。神をのろって死になさい」と、とてもじゃないが、もうついでいけないという人間の本心が出てしまいます。あくまで神を聖とし、神の主権にひれ伏す神中心の信仰と、神を認めると言いながら、いつも人間の思いを優先し、条件を付ける人間中心の信仰との違いが明らかです。

### 三、神の慈愛とあわれみ(42・10～17)

「あなたがたは、ヨブの忍耐のことを聞いている。また、主が彼になさったことの結末を見て、主がいかに慈愛とあわれみに富んだかたであるかが、わかるはずである」(ヤコブ5・11)。神があえて許されることには、神の計り知れないみ心があり、神の真実と神の慈愛、あわれみがあることを受け止める信仰が与えられますように。

神を畏れて懸命に生きてきた姉妹が、愛するわが子を二度までも失うという、まことに辛く耐え難い悲嘆のどん底を経験しました。その様子を黙って見ていたご主人が、やさしく語ったのは「神のくださった味噌汁は飲むべきだよ」という勧めでした。神の備えられる味噌汁は、

時々辛くてしょっぱくてとても飲みにくいのです。しかし、神がくださったものは、黙して飲むべきだということです。その理由は「神のみぞ知る…」でした。

マリヤは、その胎に御子を宿すことを「お言葉どおりこの身に成りますように」とお受けした時、その心が刃で貫かれることをもお引き受けしたのです。

十字架上で、「わが神、わが神、どうして…」と叫ばれた主も、その杯に盛られた苦みのすべてを黙って飲み干されたのです。どんな理不尽と思えることの中にも、神の深いみ心が隠されていることがあります。この地上で起こること、私たちの経験するすべてに理解と納得がいくわけではありません。しかし、すべてのことに神のみ心と神の真実、神の大いなる慈愛とあわれみがあることを信じ、信頼してお従いしていきたいものです。

### 結論

試練の中で神の前にひれ伏し、その主権を認めて主を告白することができますように。隠された神のみ心と慈愛とあわれみを信じ、すべてを受け止め、神を賛美することができるよう、ご聖霊の助けを祈り求めましょう。

## 研究資料

(金井由嗣)

## ヨブ記概観

「ヨブ記」はヘブライ語正典において「諸書」に分類されており、形式・文体の上からも文学作品として扱うことが適切である。ただし、物語の発端となった事件は実際に起こった出来事であり、その出来事についての伝承が語り継がれていく中で豊かな思想と文学的表現を獲得していったとみなすのが妥当である。そのすべての過程に聖霊の豊かな働きかけを認めることが本書（及び同様の文学書）における「靈感」の信仰である。

信仰者の苦難の問題を扱った本書を理解するためにはテキストの正確な読解とあわせて解釈者自身の人生経験の深みが必要であり、それゆえに様々な人の本書への取り組みに学ぶ姿勢を持つことが大事である。

## テキスト

1 ウツの地 哀歌4・21でエドムと関連づけられていることから、パレスティナより南東の土地と考えられる。ヨブという名の人<sup>1</sup>がいた 原文は「ある人がいた。ウツの地に。彼の名はヨブ」。彼はイスラエル人ではなかつ

たが、真の神を信じる信仰者であり、主に従う「義人」だった。その点ではメルキゼデク（創世記14章）と同様である。全く（ヘ）ターム） 正しく（ヘ）ヤーシヤール、原義は「真つ直ぐ」 神を恐れ（ヘ）ヤーラー） 惡に遠ざか（る）（ヘ）サール）旧約聖書における敬虔を表す用語が四つ重ねられることで、ヨブの信仰が内面的にも実践においても模範的であったことを示している。

2 男の子七人と女の子三人： 旧約聖書において、子どもと財産はしばしば祝福のしるしと考えられた。東の人々のうちでもっとも大いなる者 「ウツの地」がイスラエルから見ても東方に当たることが示されている。同時に、東の人々（直訳は「東の子ら」という言い方によって、彼がイスラエル民族に属していないことも示されている。大いなる者とは財産だけでなく、神に従う信仰と人格においても重んじられる人であった。

5 聖別し：燔祭をささげた ヨブが、隠れた罪や心の中で犯した罪にすらも気を配る「全き」信仰者であったことを示す。家長であるヨブ自身が祭司の役割を果たしていることは、族長時代との類似を示している。

6 神の子たち 天使などの神に造られた霊的存在を指

す。**サタン** 原義は「敵対する者」。ここでは冠詞を伴った普通名詞である。本書ではサタンも神の主権に服していることが明確にされている。悪の起源を単純にサタンに帰することができないからこそ、「義人がなぜ苦しむのか」という疑問が真剣な問題となるのである。

**7 地を行きめぐり：**「神の子」に列なりながら、神の全知に挑戦しようとするサタンの不遜さ。「神のようになろうとする」傲慢こそがサタンの本質である。

**9 ヨブはいたずらに神を恐れましようか** ヨブの信仰が、物質的・経済的な祝福に由来する「御利益信仰」ではないか、とのサタンの問いかけである。

**12 ただ彼の身に手をつけてはならない** 讓歩や妥協ではなく神の主権の範囲内で許されていることは、被害の範囲が厳密に定められていることから明らか。なお、神がサタンの提案を受け入れたのは、ヨブを試みようとするサタンとは対照的に神がヨブを信頼(!)していたからである(グティエレス)。

**16、18 しもべたち：むすこ、娘たち** サタンが奪うことを許される「財産」に奴隷や子供たちの人命が含まれることは、現代人の感覚にはなじみにくい。しかし大切

な人の命が奪われたということが真の喪失であり、そこで初めて神の義と愛が問われるのである。親しい者を失うことが実際に起こる人生の現実の中で本書のメッセージを受け取るべきである。

**20 起き上がり、上着を裂き、頭をそり、地に伏して拝し** 悲報に接したヨブの行動と態度。上着を裂き、頭をそったのは悲嘆の表現であり、彼はけつして感情を押し殺して事態を受容したのではない。それでも彼の行動の中心は主への礼拝であり、悲嘆の中でも神を賛美し神に主権を帰すことは変わらなかった。

**21 主が与え、主が取られた** どれほど受け入れがたい事態であっても、ヨブはその中に神の主権を認め、神を賛美する。本書における彼の悩みと問いは、苦難においても神の主権を認めるからこそ生まれるのであり、その答えも神の主権的応答の中から与えられるのである。

**参考図書** 鍋谷堯爾(新聖書辞典)、ゴルデイス『神と人間の書』、ジャンセン(現代聖書注解)、ヤナツイネン『主は取られる』、小畑進『ヨブ記講録』、向後昇太郎『主は与え主は取られる』、グティエレス『ヨブ記』、クシュナー『なぜ私だけが苦しむのか』

## 聖書

ヨブ1・1〜22

## タイトル

どんな時でも賛美しよう

主が与え、主が取られたのだ。主のみ名

はほむべきかな。

ヨブ1・21

## 目標

試験をも神のなさることとして受け止め、神を賛美する者となる。

## 導入

(飯田勝彦)

新しい年に入り「今年も良いことがあるように」、「今年こそは嫌なことがありませんように」など、心にいろいろな思いがあるでしょう。季節には春夏秋冬があり、日々の生活の中には雨の日も、風の日も、暑い日もあります。そのように私たちの生活の中には、良いこともあれば嫌なこともあります。私たちには分かりませんが神様は様々な出来事を通して、私たちを愛なる神様の方へと導いて下さいます。今日は、辛い経験の中で神様を賛美したヨブさんのお話です。

## 神をおそれるヨブさん

ヨブさんは、彼の住む地域で一番のお金持ち、セレブな人でした。たくさんの子どもにも恵まれ、羊七千頭、

らくだ三千頭、牛五百くびき、雌ろば五百頭、それだけでなく多くのしもべも雇っていました。これだけの家畜ですから、もちろん広大な土地も持っていたでしょう。そんなセレブなヨブさんは、どんな人だったのでしょうか。裕福で何不自由なく生活していたヨブさんですから、神様を信じて頼らなくても生活できたかもしれません。でも、ヨブさんは神様を心から信じ信頼した生活をしていました。神様をおそれ敬う人だったのです。

また、ヨブさんの財産を目当てに、多くの人たちがヨブさんに近づき、悪い生活へと誘う人もいたかもしれません。でも、ヨブさんの生活は悪いものから離れていました。それは、神様をおそれて生活していたからです。そのヨブさんの神様に対する信仰は、神様が認めるほどでした(8)。

私たちも神様をおそれ、神様に喜ばれる生活を歩みましょう。

## 試験に合うヨブさん

皆さんの中に、注射が嫌いな人がいるでしょう。痛い注射は、なかなか好きになれないものです。注射の日が分かっていたらそれなりに心の準備をするかもしれません



1月

## 8日 礼拝メッセージ例

ん。そのように嫌で辛いことが起ると予想できていれば、心の準備もできます。でも突然、困難が襲ってくる大変ですね。幸せに暮らしていたヨブさんの生活に突然、とても辛い出来事が起こりました。大切に飼っていた牛やらくだが奪われ、また羊や羊飼いの死んでしまいました。それだけではありません。ヨブさんの愛する息子たちがみな、死んでしまったのです。何と残酷なことでしょう。

もし、皆さんがヨブさんと同じような立場であつたらどうでしょう。私たちの人生にも、突然、辛く悲しい出来事が起こることがあります。

### 神を賛美するヨブさん

ヨブさんは、この出来事を聞くと自分の上着を裂き、頭をそりました。これは、深い悲しみを表す行為です。ですから、ヨブさんは体験した人しか分からない深い悲しみの中に立たされたのです。このような経験をしたヨブさんは神様に対して「今まであなたを第一にして来たのに、どうしてこんな酷いことをするんですか！ 私はもう、あなたを信じることも礼拝することもしません！」と言ったでしょうか。そう言ってもおかしくありません

でした。でも、ヨブさんは地に伏して神様への礼拝の姿勢をとり「わたしは裸で母の胎を出た。また裸でかしこに帰ろう。主が与え、主が取られたのだ。主のみ名はほむべきかな」と神様を賛美したのです。

何とヨブさんの口から出た言葉は、神様に対する不満ではなく、賛美でした。ヨブさんは神様が良いことをして下さるから信じていたわけではなかったのです。与えられる物も取られる物も、良いことも悪いこともすべて神様の御手の中にあり、神様はすべてを知っておられるという神様への絶対的な信頼があつたのです。ヨブさんにとっては、良い時だけの神様ではありませんでした。どんな時でも愛し導いてくださる神様への信頼の心が、ヨブさんの口に賛美を与えたのです。

### まとめ

ヨブさんが信頼し、礼拝していた神様を私たちも礼拝しています。私たちも心から神様を信頼し、神様を賛美する者にして頂きましょう。

♪主はわたしさえ♪ (ホ57)



# 聖書 詩篇1・1～6 テーマ 実を結ぶ生涯

## 序論

(高橋頼男)

詩篇は、その冒頭を「幸いなことよ」で始め、最後を「ハレルヤ」で結びます。150篇の中身は、苦しみや嘆き、懺悔など、多くの「嘆きの歌」が出てきますが、神は、神の前に真っ直ぐ歩む者に必ずその終わりを「ハレルヤ」で終わらせ、真の幸いに導いてくださるのです。詩篇の序章ともいえるべき第一篇には、「幸いな人」とはどんな歩みをする人であるかが記されています。

## 一、避けるべき歩み、求めるべき歩み(1～2)

まず、避けるべき歩みについて記されています。それは、悪しき者、罪人、あざける者の歩みに与よせず、彼らに調子を合わせることをしないことです。神の前に正しく歩まない者たちの三様、「歩む、立つ、座る」を警戒し、これを避ける生活をすると言われています。

さらに、求めるべき歩みについて勧められています。「幸いなこと」(ヘ)アシユレー)は、「真っ直ぐに歩む」と言う語から出たことばであるというのは興味深いことで

す。すなわち、真の幸いは神に対して真っ直ぐに歩むことにあるというわけです。人間が神の前に正しく真っ直ぐな道を歩むためには、どうしても神のことば(主のおきて)が必要です。

人が砂漠を歩いて横断する時、方向を定め真っ直ぐ歩き始めても左右どちらかに曲がってしまうそうです。なぜなら人の両足は長さが微妙に違って、知らない間に短い足の方向へと曲がってしまうのです。人は自分の力や頑張りで真っ直ぐ歩むことはできません。人は生まれつきのままでは、たとえ良心的に真面目に歩んでいるつもりでも、どこかで歪み、曲がってしまうのです。ですから広大な砂漠や荒野を踏破しようとするなら必ずコンパスを持ち、絶えず進路を修正することが大切です。それなしに目的地には着けず、行倒れになります。

私たちが人生の荒野を歩む時、たえずみことばを携え、黙想しつつ神の心をうかがい、その実現を通してのみ真っ直ぐな歩みができるのです。そのような歩みは安全であり、幸いであり、豊かな実を結ぶものとなるのです。「あなたのみ言葉はわが足のともしび、わが道の光です」(詩篇119・105)。

## 二、幸いな歩みの祝福(3~6)

神に対して真つ直ぐ歩む人の幸いな人生が、水の流れのそばに植えられた木に例えられています。イスラエルにとって水はたいへん貴重で、いのちの根源です。《流れのほとりに植えられた木》とは、灌漑用水路そばに移植された木のことで、自然の木ではありません。そのような木は、根を延ばして水路につながり水を豊かに補給することができます。灼熱の太陽の下でも決して枯れることはありません。厳しい暑さの中で、命の水の補給を受ける木とそうでない木との差は歴然としています。一方は、いよいよ緑の葉を広げ、養分を蓄えて実りの季節に備えます。しかし、そうでない木は、たちまちに枯れてしまうのです。厳しい夏の日照りが続いたある日、すっかり立ち枯れをしてしまった果樹を見ました。残念でたまりませんでした。この木も、本来は豊かな実りを結ぶことが出来たはずだと思っからです。命の水の補給があるかどうか分かれ目です。

## 三、我に來たりて飲め(ヨハネ7・37)

わたしたちもかつて、いのちのない世界に生きていた者ですが、神の憐れみとキリストの恵みによって救われ、

神の泉のもとに移植されたのです。罪と滅びの荒野で枯れかかっていましたが、「だれでもかわく者は、わたしのところにて飲むがよい」(ヨハネ7・37)と言われるお方のそばに移植され結び付いて、命の水の豊かな供給を受けて生きたものとされました。どんな試練や困難、落胆という日照りにあっても、いのちの本源である主とそのみことばにしっかりと結びつき、豊かないのちの供給を受けましょう。そこでこそ得ることが出来る恵みを知り、実質ある豊かな実りを結ばせていただくのです。

多くの困難、裏切り、落胆の獄屋で、夢を見つつ、ひたすら主を仰いで真つ直ぐな道を歩み続けた旧約のヨセフ物語は、まさしく幸いな人、実を結ぶ生涯の驚くべき実例となりました。

「ヨセフは実を結ぶ若木、泉のほとりの実を結ぶ若木。その枝は、かきねを超えるであろう」(創世記49・22)。

### 結論

あらゆる悪から遠ざかり、むしろ、み言葉を黙想し、み言葉に従って神の前に真つ直ぐ生きることにより、日照りの中でも甘く豊かな実を結ぶ者とならせていただきます。

## 研究資料

(小平徳行)

本篇は、緒論的詩篇として付加されたものと考えられ、詩篇全体の要約といえる。これは知恵の詩として分類され、主題は、神の啓示としての律法に従う正しい者の祝福と、律法を問題にしない悪い者の末路についてであり、それが対照的に描かれている。

## テキスト

## 1 さいわいである (ヘアシュレー) 原文では文頭に

来る(新改訳、新共同訳参照)。これは詩篇全体の基調的な思想の一つで、詩篇の中に何度か出てくる(32・1、41・1、119・1・3、128・1など)。原語は複数形であり、神に義と認められた人の受ける祝福がいかに多様で、大いなるもの、完全なものであるかを示している。この語は「真つ直ぐに歩む」(ヘアーシャル)という動詞から来ていると考えられ、さいわいな者とは、神に対して真つ直ぐに歩む者であるといえる。新約では、この語の七十人訳の訳語である[ギ]マカリオスが神の律法の目的とする所であるとイエスは教えている(マタイ5・3・11)。悪しき者(ヘレシャーイーム)「義」の反対語で、意図

的に神の命令に背く者のこと。罪びと(ヘハッターイーム)「的はずれ」を意味する語から来ており、神を知らない人生を送り、習慣的に悪を行う者を指す。あざける者(ヘレーツイーム) 誇り高ぶって、聖なることや霊的なことを馬鹿にする者を指す。このように、ここでは罪人を多角的に描写している。また「歩む」「立つ」「座にすわる」という表現は悪の深みに入り込んでいく様を段階的に描いていると見るができる。このような者でない人が幸いであると、消極的に表現している。悪を捨てることなしに聖なる生涯はあり得ない。

## 2 さいわいな人が積極的に表現されている。おきて

(ヘトラー) 律法だけでなく、神の御旨の啓示としての神のことばを表す。よろこび 「固着する」という意味があり、神のおきての中にあることを願い、み言葉を放すまいとする姿を思わせる。新共同訳では「愛し」。思う(ヘハーガー) 原語の語根は獅子のほえることや鳩のうめきなどに当てられている。また書物の言葉を小声に出して学んでいる人の姿を指す。新改訳、新共同訳では「口ずさむ」。これは黙想することでもあり、み言葉を心の中にまで至らせようとする態度を指している。こ

のことは神がヨシユアに対しても命じている（ヨシユア 1・8）。これが、真つ直ぐに歩むために必要である。

**3 流れ** 自然の川そのものではなく、灌漑するために作られた水路。植えられた木 自然に生えたままの木ではなく、移植されたもの。価値あるものとして選ばれ、手入れされ、間引きを免れた木（マタイ15・13）。時が来ると実を結び、その葉もしほまないように、そのなすところは皆栄える ルターはこの木を「なつめやし」と想像した。なつめやしは常緑樹でナツメに似た長さ5センチほどの果実が房状になり、一房に千個を数え、一本の木に6〜7房つける。木は十分な結実を見るまでには40年を要するが、150年も結実を続け、それから衰え始めるようである。聖書では正しい者の繁栄を象徴するものとして用いられている（詩篇92・12）。ヨセフの生涯はまさにこのようなものであった（創世記49・22）。

**4 もみがら** 外見は種のように見えても生命がないので根を下ろすことができず、風によって飛ばされてしまう。これは悪しき者の幸せが表面的なものであり、神のさばきに耐え得ない価値のないものであることを意味している（詩篇35・5、マタイ3・12）。エレミヤが表現し

たように、悪しき者は、湧き水である主から離れて歩み、生命の源によって養われていない状態である（エレミヤ 2・13）。

**5 正しい者のつどい** 信仰者の真の交わりを示す。正しい者（ヘツエデク） 「真つすぐである」が本来の意味。神との関係における正しきで、新共同訳では「神に従う者」と訳されている。つどい（ヘエーダー） この言葉は、他の箇所では、ほとんどイスラエルの「会衆」と訳され、神の民全体を指す。したがって、新約的に表現するならば、罪人は、天の御国に入ることとはできないということになる。

**6 本篇の要約。知られる** これは知的認識以上のことであり、愛し、守ること、恵みの中に選ぶこと（アモス 3・2）、気を配ることなど、人格的交わりを意味している（1コリント8・3）。

**参考図書** 小林和夫「詩篇」『新聖書註解・旧約3』、富井悠夫「詩篇」『実用聖書注解』、鍋谷堯爾「詩篇を味わうI」、C・H・スポルジョン「ダビデの宝庫」（以上のちのことは社）、青木澄十郎「詩篇の研究」（基督教文書伝道会）他。

## 聖書

詩篇1・1〜6

## タイトル

はい、私は幸せです！

## 暗唱聖句

このような人は主のおきてをよろこび、

## 目 標

昼も夜もそのおきてを思う。詩篇1・2

悪から遠ざかり、み言葉に生きることにより、実を結ぶ者となる。

## 導入

(飯田勝彦)

皆さんの中でペットを家族のように可愛がっている人は、ペットも幸せに暮らして欲しいと思うでしょう。

もし皆さんに将来、子どもが与えられたとします。自分の子どもが不幸になっても構わないと思いますか？ そんなことはないと思います。元気で、多くの人々に愛されて幸せに暮らして欲しいと思うのは当然でしょう。

それは、神様も一緒です。旧約聖書の申命記11章に「あなたの神、主があなたに求められる事は何であるか。ただこれだけである。…さいわいを得ることである」と書かれています。私たちの幸せを一番願っておられるのは、神様です。神様は私たちを愛してやまないからです。でも、本当の幸せってどのようなものでしょう。お金持

ちになること？ 勉強ができること？ 友だちがたくさんいること？ 健康なこと？ 皆さんは、どう思いますか？

今朝は神様が願い、与えてくださる幸いを見てみましょう。

## 悪から離れている人

幸せとはズバリ「悪いことから離れている人」のことです。

小学校六年生の信也くんは、アニメのフィギュアを集めるのが好きでした。おこづかいを貯めて少しずつフィギュアを買い集めていました。よく行く店を通りすぎようとした時、店頭に新しいフィギュアが入っているのが見えました。最初は、通りすぎましたが、気になり戻って外からじっとそれを見ていました。見るたびに、だんだんフィギュアが欲しくなりました。でも、お金はありません。信也くんは、悪いと知りながらも、欲しいという気持ちを抑えられず、とうとうお店からフィギュアを盗んでしまいました。自分のものになったフィギュアを見て、最初は喜んでいました。でも、だんだんと後ろめたい思いがあり、盗んだものを持っていることが、逆に

苦しくなってしまうのです。

私たちの心は、悪いもの「罪」が心にあると平安がなく、幸せとは感じられません。想像してみてください。皆さんが勉強もでき、欲しいゲームも持っていて、心の中に憎しみやねたみ、嘘などが満ちていたら、幸せだと思うでしょうか。悪である罪から離れ、罪に心が支配されないことが、本当に幸せな人といえるのです。

### 主の教えを喜ぶ人

アダムが神様の約束を破り、罪を犯してしまったことで、人間や人間の社会は悪に満ちたものになりました。皆さんも、ニュースでたくさん悲しい事件を聞くでしょう。学校でも、いじめが問題になっています。

悪から離れようとするなら、地球に住めないかも知れませんが、それは出来ません。大切なのは私たちの心です。心が悪に満たされないで、神様の教えを喜ぶ心がある人は、幸せです。それは、神様の教えは、私たちの心を自由にし、恵みで満たしてくださるからです。その神様の教えは、聖書にいっぱい詰まっています。聖書は、難しい本かもしれませんが、でも、私たちが幸せになる秘訣が、書かれてあります。聖書は、世界中で読まれてい

る「永遠のベストセラー」なのです。是非、皆さんも神様が与えてくださる幸せを得るために、神様の教えに耳を傾け、それを喜びとしてみてください。

### 主の教えを思う人

神様の教えを喜ぶ人は、み言葉を心に深く受け止める人です。食事をよく噛まないで栄養が取れませんね。そのように、神様の教えをしつかりと心の中で味わっていると、み言葉が私たちを悪い思いから、遠ざけてくださいます。また、悪い方に流されそうになった時、心にある御言葉によって誘惑に勝利することもできます。

イエス様も荒野で悪いものに引きずられそうになった時、御言葉によって勝利されました。

一つでも聖書のみ言葉を覚えて、心に蓄えてみてください。

### まとめ

周りはどうどん悪くなっています。でも、皆さんにはみ言葉によって「幸せです」と言える人生があります。

♪ガリラヤの風かおるおかで♪（ホ21、こ改54）



# 聖書 詩篇23・1～6 テーマ 主はわたしの牧者

## 序論

(金井信生)

この詩は（主はわたしの牧者（羊飼））という告白から始まります。これは、私たちは弱く迷いやすい点で、羊のような存在であり、羊飼いに守り導かれなければならないという思いから出た告白です。羊飼いは多くの羊の世話をしていますが、ここでは「わたしの牧者」として何の不足も覚えていないと信頼しています。

## 一、養いを与える

羊飼いは、羊を青草の原、憩いの水のほとりに導きます。どこにあるかを知っているからです。また、導かれた羊は黙って草を食べ、水を飲みます。もし羊に、もつと他においしいものがあるよ、と声をかけても見向きもしないでしょう。十分に満足しているからです。また、草と水だけで生きていけるように神によって造られているからです。

わたしたちは、何によって生きるのでしょうか。あれ

これと追い求めますが、本当に生きるために必要なものを知っているでしょうか。

羊が食べている草は、人間から見ればおいしいと思えませんし、消化も悪そうです。でも羊がちゃんと生きていくための養分が含まれており、消化できるように十分な体の機能が備えられています。また、羊の腸の中には、様々な微生物がいて、その働きによって草も分解され、栄養が吸収されています。

聖書は、わたしたちの日々に起こる出来事は神様から与えられた教材であり、すべて成長に導くものであると教えています。また、聖書の言葉は、私たちの心の糧となるものです。神に信頼して受け取るなら、悲しいことや辛いことさえも、私たちを豊かな存在へと成長させていくのです。

## 二、導きを与える

羊飼いは時に、あえて困難な道に羊を導きます。羊は知らなくても、その先に緑の野があり、泉が湧いているからです。もし羊が自分で行きたい方に行ったら、その先に危険が待ち受けているかもしれません。



主イエスも、「狭い門から入りなさい」と弟子に教えています。命に至る道は狭く、滅びに至る道は広いからです。楽な道ばかり選んでいると、必ず後になって悔やむときが来ます。私たちも、もし岐路に立つときがあったら、主が共にいてくださるのはどちらだろうか、あるいは、キリストの足跡はどちらに向いているだろうかを考えて選ぶなら、間違いはありません。そこは困難があっても、心に確信があり、平安と自由があります。

そして〈死の陰の谷〉を感じるほどに、暗い思いをすることがあっても、災いに目を奪われ、心を縛られることはありません。一切を知っておられて、その先の祝福に導こうとしておられる主がおられるからです。

そして、主の導きに従っていくとき、4節からは、今まで「主」と呼んでいたのが「あなた」と親しい交わりに深められていきます。

### 三、守りを与える

牧者である主に導かれる地上の生涯は幸いですが、まだ天国ではありません。時に私たちを苦しめる敵が現れるときがあります。でも敵を恐れたり、私たちが立ち向

かう必要はありません。聖書に繰り返されているのは、主からの「恐れるな」という励ましであり、「わたしが戦うから、あなたは静かにしていなさい」という約束です。私たちが自分できると思うとき、無謀な戦いや無益な戦いをしてしまうことがあります。むしろ、主の備えておられる食卓に着いて、主を喜んでいるときに、いつしか敵の姿は消えていきます。

このように主に信頼していくとき、私たちが祝福を追い求める必要はありません。「恵みと慈しみはいつもわたしを追う」(新共同訳)のです。そして、人生の最後には、帰るべきところがすでに用意されています。主は最後のゴールで手を広げて待っている方ではなく、今日この日から私たちをゴールまで守り支えてくださっています。

### 結論

イエスは、「わたしは良い羊飼である」と私たちを招いておられます。羊のために命を捨ててくださったこのお方に、「主はわたしの牧者であって、わたしには乏しいことがない」と感謝をもって申し上げ、主と共にこれからも歩んでいきましょう。

## 研究資料

(小平徳行)

本篇は、牧者として、その民を導き守ってくださる主に対する感謝と信頼に満ちた詩である。スボルジョンは「詩篇の真珠」と呼んだ。前半（1～4節）は主を牧者にと見え、後半（5～6節）は客をもてなす主人にと見え、

## テキスト

**1 主はわたしの牧者** 神は羊飼いとして、その民イスラエルを守り導かれるお方である。このような告白はイスラエルの歴史の古くから見られる（創世記49・24、イザヤ40・11、エゼキエル34・11など）。また支配者や王も牧者と表現された（サムエル下5・2、7・7、エゼキエル34・2）。ここでは、神とその民一般との関係ではなく、「わたしの牧者」とあるように、神との個人的な関係が告白されている。神を牧者として表すことは、同時に自分を羊にたとえることを意味する。羊が弱く、自己防衛力を持たず、近視眼的で迷いやすい動物であるように、自分もそのような存在であり、羊飼いである神に全存在をゆだねていることを告白している。また羊は財産とし

て飼われているゆえ、所有者はこれを大事にする。神は羊飼いであると共に、所有者である。ダビデは自分が主のものであることを自覚して、信頼していた。乏しいことがない 主は必要を満たしてください。この事はイスラエルの歴史において、特に荒野の40年間の旅路において体験された事実である（申命記2・7）。

**2 緑の牧場** 柔らかい草の生えている場所。伏させ安心して草を食べ、身を横たえることのできる安全な状態を意味する。いこいのみぎわ 疲れと渴きをいやす水が豊かにある所。牧草や水はいずれも羊の生命を支えるものであるが、パレスチナにおいて牧草と水は乏しく、優れた牧者によってのみ探し当てられる。か弱い羊の一切は牧者にかかっており、牧者なしには飢えと猛獣の危険からの保証はない。

**3 主はわたしの魂をいきかえらせ** 弱っている魂に生命の活力を呼び戻すこと。特に、霊的な食物である神の言葉によって養われ、神との関係の回復や深化によって魂の平静が与えられること。み名のために 救い主としての神のご性質にあずからせるため。聖なる神はご自身の民も聖であることを望まれる。正しい道 誤りのない

道、または救いに至る道と解釈することもできる。「義」は両者の真つ直ぐな関係（最も近い関係）を表わす。

**4 死の陰の谷** 狭く険しく見通しのきかない場所。パレスチナには深い谷があり、猛獣がそこに住んで、しばしば羊を襲ったと伝えられている。**むち**（ヘシユーベト）「杖」とも訳される。先に鉄の金具の付いたこん棒で、獅子や狼を追うために用いられた。**つえ**（ヘミシユエネース）「よりかかる、支える」という動詞から派生した語で、曲った柄のついた大きな杖のこと。山路を歩く時の支えや羊を数える時、さらには迷いやすい羊を懲らしめるために用いられた。**慰めます** 新共同訳は「力づける」。保護と導きだけでなく、懲らしめや訓練を慰めと捉えている。

**5 敵の前で：宴を設け** 遊牧民の生活において、逃亡者は天幕の主人の好意によって安全を保証される。主の守りは、敵の前で平然と食事ができるほど安全で確実である。アブサロムの追手を目前にしながら、バルジライにもてなされたダビデの体験は、このような主の守りの具体例である（サムエル下17・27～29）。**油をそそがれる** これは任職の儀式としての油注ぎではなく、喜びの象徴

である（詩篇45・7、133・2）。主人が客人の頭に油を注ぐことは、パレスチナでは客を歓迎する時の習慣であった。**杯はあふれます** 豊かなもてなしを受けている様子であり、主のあふれる恩寵を歌っている。

**6 わたしの生きているかぎり** 直訳すると「生涯のあらゆる日々」。順境の時も逆境の時も。**恵み**（ヘトーブ）「善」「良い事」の意。**いつくしみ**（ヘヘセド）契約に基づく愛を意味する。**伴う**（ヘラーダフ）「追いかける、追い回す」の意。主に従う者には恵みが追ってくるが、悪者には暗闇と滅びが追いかけてくる（詩篇35・6、140・11）。**わたしはとこしえに主の宮に住むでしょう** ダビデは神との交わりの場である神の宮で過ごすことが最大の喜びであった（詩篇27・4、61・4）。「主の宮」は現実の神殿の建物ではなく、神の名の置かれている場所、神がご自分を啓示される場所。イエスは万人が祭司として主の宮に住む事ができるように、私たちが自由に神との交わりにあずかれるようにしてくださった（ヘブル10・19～25）。ダビデは新約的な信仰を先取りしていたといえる。

**参考図書** 1月15日分と同じ。

## 聖書

詩篇23・1〜6

## タイトル

イエス様は、わたしの羊飼いです  
主はわたしの牧者であって、わたしには  
乏しいことがない。 詩篇23・1

## 目 標

主を牧者として生きる生涯の幸いを味わ  
う者となる。

## 導入

(飯田勝彦)

皆さんは今、悩んでいることがありますか? 「あゝ、この悩みさえなければ」と思うことがあります。でも聖書には「この世では悩みがある。」と記されています。生きていく限り悩みや困難がなくなることはありません。でも、そのような悩みや困難の中にあっても、幸いな人生を歩む秘訣が、今日の詩篇の中にあります。

## 羊のように弱い私

1節のみ言葉は新改訳聖書で「主は私の羊飼いです」となっています。聖書には、多くの動物が登場しますが、その中でもよく出てくるのが羊です。皆さんがよく知っているダビデも家の羊の番をしていました。羊は珍しい動物ではありません。イスラエルでは、生活には欠かせない

動物でした。実はこの羊、とても弱くて迷いやすく一匹では生きていけない動物だと知っていましたか?

皆さんの中に「自分は強い!」と思っている人がいるかも知れません。でも、私たち人間も羊のように弱く、一人では生きて行けないのです。よく考えて見ると私たちは「オギヤー」と生まれた時から、両親を含めて多くの人々のお世話になって今があります。それを忘れてしまうと、自己中心な生活になってしまいます。私たちが幸せな人生を歩むためには、自分が弱く、多くの助けが必要だと認めることが大切です。

## 主は私の羊飼いです

羊には、羊飼いが必要です。羊たちは、羊飼いの言うことを聞かないと迷子になって、他の動物に襲われてしまうこともあります。羊飼いは、大切な羊一匹一匹をしつかりと覚えています。そして、羊飼いは羊の健康に心を配ります。また、羊が安全に過ごせるように必死に羊を守ります。そして、美味しい草のある所に導くのです。羊は、羊飼いがいることで安心して過ごすことができるのです。

私たちも、私たちの幸せを考え、導いてくれる人が必

要です。皆さんの側には、そのような人がいますか？ 私たちの羊飼いとなつてくださるのが、イエス様なのです。イエス様は、優しい手を私たちに差し出してくださいます。「イエス様、私の羊飼いになってください」と私たちがイエス様の差し出された手を握るなら、イエス様は、しっかりと手を握り返して下さいます。そして、その手を離さず、いつも共にいてくださいます。

皆さんはイエス様を「わたしの羊飼い」として迎えているでしょうか？

### 私には足りないことがあります

私たちの周りには多くの物で溢<sup>あふ</sup>れています。100円均一のおかげで、簡単にしかも安く手に入れることができます。でも便利な反面、「どうせ100円だから」と大事に物を使わなくなっていないでしょうか。そして次から次へと新しい物を手に入れても「まだ足りない。もっともっと」といつまでも満たされない気持ちで不平不満が心に満ちていないでしょうか。

今朝の詩篇には、びつくりすることが記されています。「わたしには乏しいことがない」（1）、これはすべてに満たされて安心していることの告白です。

どうして、そのように言えるのでしょうか。それはイエス様が「私の羊飼い」となつて下さっているからです。イエス様は、私たちの心をいきいきとさせて下さり、正しい道に導いてくださいます。人生の中で苦しく辛いことがあっても、イエス様はいつも共にいて慰めて下さいます。恐れるようなことがあっても、変わらずに祝福を注ぎ続け、いつも恵みを与えてくださいます。

いろいろな悩みが多く、実際に悩んでしまう私たちです。でも、心をイエス様に向けるとき「あつ、そつだ。イエス様は、私のことをすべて知ってください、いつも共にいて必要な助けと慰め祝福を与えてくださる！ それならば、私は乏しいことがない！」と告白できるので

### まとめ

イエス様を「私の羊飼い」として、心にお迎えしましょう。弱い自分を知るほど、イエス様の優しさ素晴らしさを体験でき幸いな生活を送ることができるのです。

♪しゅイエスのひつじ♪（こ49、ホ28）

聖書 伝道12・1・14  
テーマ 若い日に造り主を覚えよ

序論

(金井 望)

本日は伝道の書のメッセージを通して、若い日に造り主なる神を知り、このお方を畏れ敬う生涯を送ることがいかに幸いであるかを学びたい。

一、いつさいは空である

伝道の書は「ダビデの子、エルサレムの王である伝道者の言葉」(1・1)である。この王は比類無き知恵者である(1・16)。恐らくソロモンであろう(列王上3・12)。「伝道者」(コヘレト)とは「集会を召集する者」とか「集会で語る者」の意である。ソロモンは民の代表者を召集して語った(列王上8・1、12)。ただし「伝道者」は匿名である。それはソロモンの残した言葉を後の人が編集したからだろう(12・9・14は編集後記である)。

〈空の空、いつさいは空である〉。これが本書の一貫した思想である。〈空〉と訳される原語は「息」とか「蒸気」を意味する。これが転じて、「すぐに消えてしまう実体

の無いもの」という意味を持つ。本書にはこの語が37回も用いられる。

快樂、食欲、美食、性欲、妾、物欲、金銀、財宝、金錢、財産、遺産、邸宅、庭園、園芸、歌唱、事業、労働、業績、研究、知識、才能、名声、競争、権力、賄賂、不正、不条理、裁判、誓約、階級、貧困、虐待、戦争、災害、破産、病氣、疲労、痛み、怠惰、夢想、饒舌、愚痴、笑い、狂氣、忘却、忘恩、孤独、失望、悩み、高慢、怒り、憎しみ、妬み、呪い。〈いつさいは空である〉。

二、人はみな老いて死ぬ

人は誰も老いと死から逃れることはできない。〈造り主〉を知らぬ人の末路は〈悪しき日〉である。〈わたしにはなんの楽しみもない〉という高齢者がなんと多いことか。彼らの心は〈日〉が陰り、雨雲が立ち込める冬景色のようである。

腕は〈震え〉、背中は〈かがみ〉、歯が〈少ない〉ために噛みこなせず、〈目はかすみ〉、耳は遠くなる。胃の調子が悪くなり、目覚めが早くて〈鳥の声によって起きあがり〉、美しかった声も〈低く〉なる。〈高い〉所が恐く



なり、《道》を歩くのも恐ろしい。《あめんどう》の《花》のように髪は白くなり、足腰が弱って足を《ひきずり歩き》、肉体の《欲望は衰え》る。死期が近づいて、《永遠の家に行こうとするので、泣く人が、ちまたを歩きまわる》。やがて体のあちこちが《切れ》、《砕け》、《破れ》て、死を迎える。

人間は「土のちり」にすぎない（創世記2・7）。《ちりは、もとのように土に帰り、霊はこれを受けた神に帰る》。人は「母の胎から出てきたように、すなわち裸で出てきたように帰って行く。彼はその労苦によって得た何物をもその手に携え行くことができない」のである（5・15）。

### 三、若い日にあなたの造り主を覚えよ

無常なる世に、生きる望みはあるのか。伝道者は説く、《あなたの若い日に、あなたの造り主を覚えよ》。創造主を知ることによって、初めて人は自らの存在意義と限界を悟る。神は「人の心に永遠を思う思いを授けられた」（3・11）。しかし、真理から目を背け、今しか見えず、欲望のままに生きるなら、まさに「人は獣にすぎない」

（3・18）。

「若い者よ、あなたの若い時に楽しめ。…あなたの心の道に歩み、あなたの目の見るところに歩め。ただし、そのすべての事のために、神はあなたをさばかれることを知れ」（11・9）。《神を恐れ、その命令を守れ。これはすべての人の本分である。神はすべてのわざ、ならびにすべての隠れた事を善惡ともにさばかれるからである》。神の法を知らずに生きるのは無免許運転に等しい。事故に遭うのも無理はない。聖書を学び、み言葉に従って生きよう。そうすれば私たちの人生は実体のあるものとなり、私たちの心は満たされる。

### 結論

現代のメディアは子どもたちを単純な楽観主義、利己的な快樂主義、厭世的な禁欲主義へと導く。そこに救いは無い。虚無感と孤独と破滅が待つだけである。子どもたちに《あなたの若い日に、あなたの造り主を覚えよ》と語ろう。「神をかしこみ、み前に恐れをいだく者には幸福がある」（8・12）。



## 研究資料

(石田高保)

## テキスト

1 あなたの若い日に、あなたの造り主を覚えよ このみ言葉は11・7以下の続きであり、その結論である。特に「あなたの若い時に楽しめ：ただし、そのすべての事のために、神はあなたをさばかれることを知れ」(11・9)と呼応している。まいたものを刈り取ることになる前に。あなたの造り主 若い人の本分は、自分が神に造られた者であることを知り、自分の造り主である神に信頼して生きることである。わたしには何の楽しみもない 自分の造り主を人生の計算に入れてこなかった人は、終わりに至って望みも喜びも見出せなくなる。

2-6 2-6節は、冬の情景や日常生活を描きながら、老人の心と体の衰えてゆく様を表している。解釈はバラエティに富んでいるが、代表的なものを挙げてみる。日や光や、月や星の暗くならない前に 日差しが弱まり、光が暗くなることは、生きる喜びが失せてゆく様を表している。雨の後にまた雲が帰らないうちに 雨模様の天気が終わらないことから、老いによる寂寞感の絶えない様。家を守る

者は震え 老化のため両腕(複数形)が震えること。力ある人はかがみ 腰や膝、両足が衰えて弱くなる様。ひきこなす女は少ない 歯が欠けてくること。窓からのぞく者の目はかすみ 目がかすんでゆく様。町の門は閉ざされる耳が遠くなる様子。人は鳥の声によって起き上がり 眠りが浅く、目覚めが早いこと。歌の娘たちは皆、低くされる歌声に張り合いがなくなり、声を出す力が衰えてくる様。高いものを恐れる。恐ろしいものが道にあり 怪我をしないために高い所や歩くことを控えること。あめんどうは花咲き あめんどうの花は白いで、白髪になる。いなごはその身をひきずり歩き お年寄りが歩く様子。その欲望は衰え 肉体的欲求が低下する。人が永遠の家に行こうとする 死や墓に向かうこと。銀のひもは切れ、金の皿は砕け 天井から吊るされたともし火皿のひもが切れることによつて、部屋が真つ暗になる様を描きながら、死の暗黒を象徴している。水がめは泉のかたわらで破れ、車は井戸のかたわらで碎ける 命の綱である水がめが破れ、滑車などが井戸に落ちて壊れるように、人生の終わりを表現している。

7 ちりは、もとのように土に帰り ちりによつて造られ

た人間の肉体が死によってちに帰ることから、この世だけを追及する人生のむなしさを表している。霊はこれを授けた神に帰る。人間は死んで消滅するのではなく、神の前に立つという警告を含む（11・9、12・14）。

8 空の空、いっさいは空である 神を抜きにしていかに華々しい人生を送ろうとも、結局は死によって無意味と化する。これが結論であれば救いがないが、13節に解決の道が示されており、神に従って歩んだ人生は神の前に永遠にものを言う（マタイ25・40）。

9 これ以下に本書の執筆の動機や事情、背景などが明らかにされている。伝道者（ヘコヘレトウ） 集会での語り手、説教者。[ヘ]カーハル（人を集める／動詞）から派生した言葉で、七十人訳ではエックレジヤステス（集会で話す人）というギリシャ語に訳されている。知恵がある（ヘ）ハーカム／形容詞） これは実際のな能力としての知恵や、人間的賢さとしての知恵とは違う。神を畏れてみ言葉に従うときに与えられる霊的な力としての知恵である。「霊的な知恵と理解力」（コロサイ1・9）に通じる。聖書は他のいかなる知恵にもまさって、この知恵こそが真の祝福の源であることを繰り返し強調している（詩111・10、箴言9・

10、エレミヤ8・9等）。知識（ヘ）ダアトウ） これも上記の知恵と同じく、神を体験的に知る知識、あるいは倫理的、実際のな知恵のこと。

10 真実の言葉 新約的に言えば真に人を生かす「福音の真理」であろう（ガラテヤ2・5、コロサイ1・5）。

11 知者の言葉は突き棒のようであり 羊飼が羊を棒で突きながら、正しい道へ導くことにたとえている。よく打った釘のようなもの み言葉が魂に打ち込まれ、生き方がみ言葉で方向づけられる。

12 多く学べばからだが疲れる 学ぶことを否定しているのではない。それが自己目的とならないように、むしろ生きる知恵を獲得し、他者を生かすためとなるように。「無くてならぬものは多くはない」（ルカ10・42）。

13 神を恐れ、その命令を守れ これは「空の空」と言われる人生に意味を持たせ、生きる力をもたらす秘訣である。神を礼拝してその恵みをいただくことによってこそ、み言葉を守ることができる。これは神と共に歩むことである。すべての人の本分 神から見て人間らしい生き方であり、人の創造された目的である。

参考図書 ティンデル聖書注解、新聖書注解

## 聖書

伝道12・1～14

## タイトル

若い日に造り主を覚える

暗唱聖句 あなたの若い日に、あなたの造り主を覚えよ。

伝道12・1

## 目標

造り主なる神を信じる生涯の幸いを知る。

## 導入

(土屋開夫)

もうすぐ1月も終わりですが、お正月の時には家族やお友達と一緒に正月らしい遊びをした人もいるかも知れませんか。ところで「すごろく」って知っていますか？サイコロを振って、スタート（ふりだし）からゴール（あがり）を目指して進む、昔の遊びです。え、知らない？じゃあ「人生ゲーム」なら知ってますか？これもスタートからゴールを目指すのですが、億万長者（大金持ち）になる事がゴールなんです。でも、億万長者になる事が本当に人生のゴールなんですか？ 私たちは億万長者になるために、生まれて来たのでしょうか？そして億万長者になるために生きているのでしょうか？

## 人生について考えたソロモン王

今日の聖書個所の伝道の書は、ソロモン王様がその人生の最後の方に書いたのではないかと言われています。もしそうだとすると、ソロモン王様は誰よりも億万長者だったので、最初から人生ゲームをゴールしてるようなものです。それで楽しそうな事をなんでもやってみたい、あらゆることを勉強して調べたりしました。でも「空しい、空しい、意味がない、つまらない」と感じるばかりで、心は全然満たされませんでした。

そんなソロモン王様が「人生ってなんだろう？ 生きる意味って何だろう？」と改めて考えたのです。そして心に与えられた答えが、今日の聖書個所の言葉です。

## スタートを知ることが大事！

「あなたの若い日に、あなたの造り主を覚えよ。」

これはどういう意味でしょう？ 人生はもちろん、ゲームではありません。ゲームならやり直しが出来ますが、人生はやり直しが出来ない、たった一度きりの大切なものです。だから間違った生き方をしたら大変です。

まず人生で何より大事な事は、自分のスタート地点を

知る事です！ スタート地点が分からなければ、何も始まりませんね。最初から迷子になつてゐるようなものです。

あなたのスタートを知る事。あなたは自分がどこから来たのか、なぜ生まれたのか、なぜ生きているのか、知っていますか？ 「お母さんが生んでくれたから。」確かにそうですね。でもお母さんが造つた訳ではありません。男の子になるか、女の子になるか、そしてどんな性格になるか、お母さんが決めた訳ではありません。お母さんのお腹の中であなたを造り、あなたに命を与え、あなたを存在させたのは、造り主である本当の神様なのです！ だから、あなたのスタート地点は神様です。神様が、「あなた」という宇宙に一人だけの存在を、最高の愛を注いで、神様に似せて造られたのです！ この真理をなるべく「若い日に」知る事が大事です。子どもの時から知っていたら一番いいですね。スタートを知っていれば、ちゃんとゴールを目指すことが出来ます。

### ゴールを目指して！

ソロモン王様は、人生のスタートの事だけでなく、ゴールの事も教えています。あなたは今は子どもです。でも

やがて、おじいちゃん、おばあちゃんになります。そして体はいつか死んでしまいます。じゃあ体が死んで、動けなくなったら、それで人生は終わりなんでしょうか？ 死ぬ事が人生のゴールなんでしょうか？

いいえ、ゴールはそこではありません。その先です。「ちりは、もとのように土に帰り、霊はこれを授けた神に帰る」(7)とあるように、体が死んだ後、霊は神様に会うのです！ そして、あなたが造り主なる神様を信じ、そして救い主イエス様を信じていれば、あなたは天国に入れます。素晴らしいですね！ このゴールを知っているなら、ゴールを楽しみにしながら生きていく事ができます！

### まとめ

人生のスタートとゴールを知っていれば、安心して、毎日しっかりと生きていく事が出来ます。あなたを造られた方、そしてゴールで迎えてくださる神様をいつも覚えて生きていきましょね！

♪きみは愛されるため生まれた♪

# 聖書 ミカ5・2、5a テーマ 神の国の約束

## 序論

(小泉 創)

預言者ミカの時代には、大国アッシリヤの脅威が迫っていました。北王国を壊滅させたのち、アッシリヤの手は南王国にも伸ばされていたのです。

彼らの窮状の原因は、神を捨てて偶像礼拝に陥った罪にありました。神から何度も警告は発せられましたが、人々は聞く耳を持たず、神の言葉を侮っていました。

## 一、小さな町ベツレヘムよ(2)

神はミカを通して良き知らせを伝えました。それは神の民を治める新しい王が与えられるということでした。ベツレヘム・エフラタはダビデの生まれた町です。ダビデを輩出したとはいえ、他の町と比べてもとるに足りないと思われていたその町から、王が与えられるというのです。しかし神は昔よりそのご計画を進めておられました。ミカが強く非難した当時のつかさたちが陥っていた腐敗、罪(3章)と無縁な新しい王が必要でした。

ミカが預言したこの新しい王がキリストであることを私たちは知っています。二千年前のクリスマスマスにこの預言の言葉が成就しました。神は救いのご計画の中で、このことをなすことを決めておられました。小さなベツレヘムの町の、さらに目立たない家畜小屋で、真の王であり、すべての人を救うキリストがあらわれたのは、主なる神の熱心さによるのです。

## 二、キリストによって養われる群れ(3、4)

〈産婦の産みおとす時まで、主は彼らを渡しおかれる〉というみ言葉の通り、エルサレムも敵に渡され散り散りになります。しかし、その中から主に立ち返る者たちが起こされます。一時は敵の手に渡され、事態が悪くなるように見えたとしても、その中で神のわざは進められていきます。神のご計画は裁きで終わらず、回復の約束があるのです。

散り散りになった神の民、〈その群れを養い、彼らを安らかにおらせる〉という約束は、よい羊飼であるキリストが実現なさることです(ヨハネ10・11)。私たちはどのような時にも希望となってくださるキリストに目を留

め、そのあとをついていきましょう。

### 三、地の果てまで及ぶ平和（5）

戦争によって平和はもたらされません。悲しみと憎しみの火種がまかれるだけです。それがわかっていてもなお争いは繰り返され、血も涙も流され続けています。

「あなたがたの中の戦いや争いは、いったい、どこから起るのか。それはほかではない。あなたがたの肢体の中で相戦う欲情からではないか。あなたがたは、むさぼるが得られない。そこで人殺しをする。熱望するが手に入れることができない。そこで争い戦う。あなたがたは、求めないから得られないのだ」（ヤコブ4・1～2）。争いの原因は私たちの内にあります。ですから神は、強大な武力によって平和をもたらそうとはなさいません。逆にもっとも力から程遠く、無力さの象徴である十字架の死によって、〈主の力〉、〈その神、主の名の威光〉をあらわされました。

主が与えてくださる平和を私たちがまずいただき、平和をつくり出す者にしていただきたいのです。そして再び主がおいでになるとき、私たちはその完成を見ることが

になります。

「彼は多くの民の間をさばき、遠いところまで強い国々のために仲裁される。そこで彼らはつるぎを打ちかえて、すきとし、そのやりを打ちかえて、かまとし、国は国にむかつてつるぎをあげず、再び戦いのことを学ばない」（4・3）。

### 結論

私たちは弱っている者たち、小さな者たちが、主にあつて立ち上がる力を与えられ、素晴らしい名が全地であがめられるその時、主の再臨の時を待ちわびています。

主を信じる者たちには平和の主のご支配が始まっていて、完成の時を目指して進んでいます。その約束をしつかりと胸に抱いて、離さないようにしましょう。そして私たちも主の群れとして、安らかに導いていただきたいのです。



## 研究資料

(金井由嗣)

## 「神の国」について

今回から四週にわたって聖書が教える「神の国」のメッセージについて学ぶ。この教えの全体像を簡潔に学ぶには『聖書神学辞典』の同名の項目が、詳しく学ぶにはラッド『神の国の福音』がお勧めである。主イエスの教えの核心としての「神の国」についてはボウカム『イエス入門』の第四・五章を参照。

## 預言者ミカとその時代

ミカはイザヤとほぼ同時代の人である。ミカ4・1と3とイザヤ2・2と4には同一の預言が記されている。両者の関係については諸説あるが、両者が同じ思想と信仰に基づいた預言を語ったことは確かである。彼らは神の民イスラエルの罪(偶像礼拝、富者による貧者の搾取、不正な裁き)を厳しく糾弾し、「平安」を唱える偽預言者に反対して神の裁きとしての亡国とバビロン捕囚を予告する。しかしそれにとどまらず、捕囚の地で悔い改めた「残りの者」による国の再建と「終わりの日」のメシア王国の到来をも預言する。彼らの預言が主イエスによる

「神の国の福音」の先触れとなり、旧約と新約を繋ぐ役割を果たしたのである。

## テキスト

新共同訳では節が1つずつずれることに注意。

2 しかし 1節の「今」は文字通り、エルサレムが敵軍(アッシリア軍。イザヤ36章参照)に包囲されている中でこの預言がなされたことを示している。大国の軍勢力に神の民が屈しようとしている中で、「しかし」と神の視点から見た救いのメッセージが力強く語られる。ベツレヘム・エフラタ エフラタはベツレヘムの別名(創世記35・19)。この地名はダビデ王の出自と常に関連付けられている(サムエル上17・12、詩篇132・6他)。エルサレムの腐敗した王権に代わって、ダビデの家系から新しい王が立てられることの預言である。あなたは 擬人法でベツレヘムに呼びかけている。神の特別な顧みが表示されている。小さい 質的な意味で「取るに足らない」の意味。七十人訳では「最も小さい」と意訳され、その解釈はマタイ2・6にも反映されている。出る は未完了相であり、七十人訳が未来形で訳しているように、将来の出来事の予告であるが、それは、昔から、いにしえ

の日からの決定事項として語られる。エルサレムの王朝からではなくダビデ王家の「ルーツ」にメシアの起源があることがここでも意識されている。

3→4 それゆえ 新共同訳は「まことに」と訳すが、ここでは前節を理由とする順接と理解したほうが良い。「イスラエルを治める者」が「出る」のは未来の出来事であり、それまでは神の民は敵に 渡しおかれる この動詞〔ハ〕ナータンの主語は主なる神（口語訳、新共同訳）とも非人称（新改訳）とも取ることができる。産婦 と産み落とす は同語根が重ねられている。「産婦」はミカ本来の文脈では信仰共同体としての「娘シオン」（4・10新共同訳）を指す。その後 新共同訳は「そのとき」。原文では単純な接続詞〔ハ〕ワウだが、内容の連続性を考慮してこのように訳している。兄弟たちの メシアの兄弟 という意味ではなく、イスラエル共同体の結びつきを指す用語。残れる者 捕囚と回復の預言において鍵となる重要な用語。背信の罪に問われたイスラエルの中で、悔い改めて信仰に立ち返る人々を指す。イスラエルの予らのもとに 民全体が同時に回心するのではなく、悔い改めた「残りの者」が民のもとに 帰る 時にイスラエル

の回心と救いが起こる。「残りの者」〔ハ〕イエテルは単数形だが「帰る」の動詞は複数形であり、集合名詞として用いられている。従って4節の主語 彼は「残りの者」ではなくメシアである。彼は主の力により、その神、主の名の威光により、立って 主の群れを 養い、安らかにおらせる。これらの動詞と副詞句の組み合わせは幾通りも可能だが、全体の意味は明白である。「安らかにおらせる」には3節の「帰る」と同じ動詞が用いられている（直訳は「彼らは帰る」）。今は預言の時点ではなくメシアの到来の時点を目指す。その時メシアは 大いなる者となって その権威は 地の果てにまで及ぶ。

5 これは平和である メシアの到来による神の王権の確立こそ真の「平和」〔ハ〕シャロームである。「である」〔ハ〕ハーヤーを本来の語義「なる」と解釈して「かくして平和になる」と訳すことも可能である（新改訳）。

参考図書 『聖書神学辞典』、ラッド『神の国の福音』、ボウカム『イエス入門』、ウォルトキー（ティンデル）、三木（新聖書講解シリーズ）、ヘッシェル『イスラエル預言者 上』、Allen (NICOT), Mays (OTL), McKane (T&T Clark)。

## 聖書

ミカ5・2～5a

## タイトル

イスラエルを治める者

## 暗唱聖句

ベツレヘム・エフラタよ、イスラエル

を治める者があなたのうちからわたしの

ためになる。  
ミカ5・2

## 目標

キリストの平和なご支配の中を生きる者となる。

## 導入

(後藤 真)

最初にクイズです。サウル、ダビデ、ソロモン。いま言った人たちはみんなイスラエルの○○です。さて何でしょう？ そうです。こたえは王様。イスラエルという国を治める王様です。

王様は国の中でいちばん力があります。みんな王様の言うことに従わなければなりません。いいなあ、ほくも王様になりたいなあと思いますか？ でも王様も責任重大なのです。王様が間違った命令を出すと、国がだめになってしまふからです。では、みなさんはよい王様と悪い王様、どちらの国に住みたいですか？ もちろん良い王様の国ですね。

## ミカ

今日開かれているミカ書は、ミカという預言者のことばが書かれています。ミカが預言したころの王様は、あまりよい王様ではありませんでした。別の神様を拝んだり、神様ではなくて外国の力に頼ったりしました。それでイスラエルでは、本当の神様を礼拝する人が減ってきて、だんだん国が乱れてきました。金持ちが貧しい人から土地を取り上げたり、裁判官にお金を渡してさばきを曲げたりしていました。

神様はとても悲しい気持ちだったでしょう。それで預言者を通してイスラエルに、悔い改めて神様に立ち返るように何度も伝えました。それなのに、王様たちもイスラエルの人たちも、神様のことを聞きませんでした。それで、神様はしばらくの間、強い大きな外国をもちいてイスラエルを滅ぼすことを決めます。ミカや、ミカと同じころの預言者たちは、このつらい預言を語らなければなりませんでした。

## 新しい王様

けれども神様は、イスラエルを滅ぼされたままでは置かれませんでした。新しい王様を立て、イスラエルを立

て直すことを約束します。

その新しい王様は、ベツレヘム・エフラタから出る方です。ベツレヘムはダビデ王が生まれた町でしたが、小さな町でした。エルサレムのような大きな町ではなく、ベツレヘムという小さな町から、イスラエルを治める新しい王様が生まれる。それはびつくりするような約束でした。

それだけではありません。新しい王様は、神様の力によって治める方です。また、羊飼いが羊を飼うように、人々を大切にしてくださる王様です。なんと素晴らしい王様でしょう。

ミカを通して語られた神様の約束は、その通りに実現しました。新しい王様とは、今から二千年ほど前、ベツレヘムの家畜小屋に生まれたお方。そう、イエス様です。イエス様は、人々に仕えました。病気を治し、悪霊を追い出し、聖書を教えました。十字架にかかってわたしたちを救ってくださいました。

イエス様は地の果てまで、世界すべてを治める王様です。わたしたちの羊飼いであるイエス様は、イスラエルだけではなく、わたしたちの王様なのです。憎み合う心

を愛し合う心に変え、世界を平和に導くお方です。

### 良い王様についでに

良い王様であるイエス様は、今も生きていてわたしたちの王様になってくださいます。どうすればイエス様を王様とすることができのでしょうか。ひとつはわたしたちそれぞれの心の真ん中にイエス様をお迎えすることです。自分の思う通りではなく、イエス様の喜ぶことは何かを考え、イエス様に従うことです。

もうひとつは、わたしたちお互いの真ん中にイエス様をお迎えすることです。いっしょに礼拝し、いっしょにみことばを聞き、いっしょにお祈りし、いっしょに話し合う。そこにイエス様が王様としていらつしやるとき、わたしたちは愛し合い、相手のことを思えるようになりま

す。イエス様にいっしょについてゆきましょう。イエス様はわたしたちを正しく導いてくださる、良い王様、最高の王様なのです！

♪我らの主にむかって♪ (PW33)

# 聖書 マルコ1・14～15 テーマ 神の国の福音

## 序論

(大頭眞一)

主イエスは、年およそ30歳で公に宣教の働きを始めた。その時語られた福音とはどのようなものだったのであろうか。まず福音はよき知らせ、グッドニュースであることを十分に理解したい。ニュースとは事実の報道である。信じるかどうかは聞く人次第であるけれども、聞く人の反応に関係なく事実は存在する。第二次世界大戦が終ったニュースを信じないで、30年間ジャングルの中で戦い続けた方がおられたことをご存じだろうか。何という悲劇だろう。

## 一、時は満ちた

「わたしは恨みをおく、おまえと女とのあいだに、おまえのすえと女のすえとの間に。彼はおまえのかしらを砕き、おまえは彼のかかとを砕くであろう」(創世記3・15)という御子の派遣の約束以来、繰り返されてきた神の恵みの支配の預言はついに実現した。その時がきたのである。

時が満ちたのは、神がそのイニシアティブを取って満ちさせられたからである。神は損なわれた世界を回復するために主イエスを遣わされた。時が満ちたから主イエスが来られた、というよりもむしろ、主イエスが来られたから時が満ちたのである、と覚えたい。「わたしよりも力のあるかたが、あとからおいでになる」(1・7)と言ったバプテスマのヨハネは、自分が時が満ちる直前の人であることをよく知っていた。

〈時は満ちた〉の持つ圧倒的な勝利の響きに注意したい。次の〈神の国は近づいた〉に見られるように、神の国は始まったけれども完成していない。けれども、新約聖書において支配的なのは「始まった」の響きである。決定的に新しい時代が到来した。主イエスが来られた世界はもはや以前の世界と同じではない。だから救いは今、ここで可能なのである。

## 二、神の国は近づいた

神の恵みの支配である神の国が始まる以前には、人々はサタンとその悪の力の支配の下にあった。罪と悪魔の圧制からの救いこそが神の国のもたらす現在の実である。しかし、この解放のために御子の十字架があったこ

とを忘れてはならない。「…それは、死の力を持つ者、すなわち悪魔を、ご自分の死によって滅ぼし、死の恐怖のために一生涯、奴隷となっていた者たちを、解き放つためである」(ヘブル2・14、15)とあるように。

始まったけれども完成していない神の国において、死はいまも存在する。しかし永遠の命は死を超える。誘惑は今も存在する。けれどもキリストと一つにあるならば、私たちは罪から守られる。病の床も悲しみに終わらず、賛美と証の祭壇となる。このように、私たちは完成へ向かう世界の中で苦しみつつ喜び、歌いつつ痛む。そうしている内にも神の国は成長している。そしてやがて主が再臨なさるときに、損なわれた世界に完全な回復が訪れるのである。

### 三、悔い改めて福音を信ぜよ

ここに福音の宣言は単なる宣言にとどまらず、私たちへの招きとなる。すでに始まった神の国へ飛び込むようにと主はお命じになるのである。

神の主権は人間の自由な応答と共存する。救いは一方的な神の恵みでありながら、人間の側の応答なしには成立しない。これがアルミニウスやウエスレーの信じた神

人協働説である。つまり、もし誰かが滅びるならその責任は神ではなく、招きに<sup>だれ</sup>応答しなかった人間の側にある。

招きへの応答は悔い改めとイエス・キリストへの信仰である。(悔い改め)(ギ)メタノイア)は心の向きを転換するという意味をもつ言葉。自分の罪に気がつき、赦しを乞うて、これまでの自分中心に生きてきた生き方を神中心に転換することである。悔い改めと信仰を切り離すことはできない。「罪を悔いて<sup>ゆる</sup>赦しを求めることをしなれば、神を信頼して生きることができない」(内田和彦著「キリスト教は初めて」という人のための本」90頁)からである。

### 結論

今日の個所の直後、16、20節にはシモン、アンデレ、ヤコブ、ヨハネの4人の弟子への召命と彼らの即座の服従が描かれている。もちろん、これは彼らだけのことでない。福音を聞くすべての人は、このように主イエスを信じて従うことを期待されているのである。



## 研究資料

(宮澤清志)

今週のテーマは「神の国の到来」。暗唱聖句は「時は満ちた。神の国は近づいた。悔い改めて福音を信ぜよ」(マルコ1・15)。

このみ言葉は、イエスのメッセージの中心であるといわれる。イエスというお方はどういふことをお話してくださったのか、と問われた時に、まずこのみ言葉をもつて説明される。

## テキスト

14 ヨハネが捕えられた後 直訳は「ヨハネが引き渡されて後」。ヨハネの時代が終わり、イエスの時代へと至る連続性が語られる。ガリラヤ イエスの宣教の中心地。神の福音 イエスが宣べ伝えたのは「神の福音」であった。神の福音とは「神についての福音」と理解することもできるが「神から与えられた福音」と理解する立場の方が多い。福音 については後で述べる。

15 時は満ちた 神が定められた時が到来した、という意。すなわち旧約におけるご自身の約束が成就するため、神が定めておられた時が到来した、という意味であ

る。時 とは〔ギ〕カイロスという言葉である。この「時」とは、神の計画の中で定められている終末の救いの「時」であり、「正しい時」「適切な時」「好ましい時」「ある定まった時」「危機の時」「最後の時」といった意味を持つ。新約聖書では、「満ちる」の他に「完了する」「成就する」「完成する」「実現する」といった意味に訳されている。イエスは「あなたがたは、(旧約)聖書の中に永遠の命があると思って調べているが、この(旧約)聖書は、わたしについてあかしをするものである」(ヨハネ5・39)と語られたように、旧約聖書はキリストの来臨を預言している書なのである。その旧約聖書がキリストの到来を通して実現成就したという宣言なのである。神の国は近づいた 「神の国」とは、人間が考えるような理想郷(ユートピア)や、空のかなたにあるといったものではなく、神の恵みの支配を指す。神が王として支配することであり、神の栄光、神の正義、神の平和、神の救いが満ちているところである。その神の恵みの支配が「近づいた」と語るのである。この「近づいた」を、到来した、という意味に解する説もある(実現された終末論)。「時は満ちた」のであるから、神の支配も実現したというのであ

る。またこの「近づいた」を、将来のことと理解する説もある（徹底的終末論）。しかし、ある学者は、この言葉を「イエスの到来によって、神の恵みの支配が始まった。しかし、それはもう一度イエスが来臨なさる時に完成するのである」（開始された終末論）という考えを示した。聖書にはその両面が記されている。イエスの到来によって、確かに神の国は現実のものとなった。しかし同時に、この神の国はキリストの再臨によって完成するものである。聖書はこの両者を語っているのである。悔い改めて福音を信ぜよ もう一つ、イエスが主張されたことは悔い改めと信仰である。イエスのメッセージの中心は「神の国」であり、その神の国に入るために必要な条件が「悔い改めと信仰」ということである。「悔い改め」とは、原語的な意味としては「よい方へ（あるいは悪い方へ）心を変える」という意味である。新約聖書では、人間の生きる姿勢全体の転換を表し「明らかにされた神の姿に合わせた生き方を取る」という意味として用いられる。すなわち「悔い改める」とは、生き方の一部の手直しではなく、生き方全体の方向転換を意味する。また、悔い改めの対象は、罪の結果に対しての悔い改めではなく、

罪そのものに対しての悔い改めを指す（マルコ1・4）。この点、後悔とは決定的に異なる。この悔い改めが神の民とされるための消極的側面であるのに対して、「福音を信じる信仰」という側面は神の国への積極的側面であると言えよう。「福音」とは、古典ギリシャ語では、よい知らせをもってきた者に対する報酬という意味で用いられた。しかし、後にはよい知らせそのものを指して用いられている。イエスが宣べ伝えた神の国は「よい知らせ」（福音）であり、マルコはこの「よい知らせ」（福音）がイエス・キリストによってもたらされたものであり、何よりもこの福音はイエス・キリストそのものであると語るのである。そして、そのイエス・キリストを私にとつての「よき知らせ」（福音）として信じる信仰が、神の国に生きる民には必要なのである。

参考図書 A. T. Robertson 「Word Pictures in the New

Testament I」(BROADMAN)、小林和夫「栄光の富Ⅱ」

(日本ホーリネス教団出版局)、他

## 聖書

マルコ・14・15

## タイトル

あなたは招かれています！

## 暗唱聖句

時は満ちた、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信ぜよ。マルコ・15

## 目標

悔い改めと信仰により、神の国の恵みに入る。

## 導入

(飯田勝彦)

パペスマのヨハネから洗礼を受けられたイエス様の上に、聖霊が鳩のようにくだり、上からの力で満たされました。そして、悪魔サタンの誘惑に勝利され、大胆に宣教を開始されたのです。イエス様の生涯は、いのちがけで宣教された生涯でした。

## 時が満ちた

その最初の言葉は、「時が満ちた」でした。これはどういう意味でしょうか。皆さんの中で「時が満ちる」と言う言葉を使いますか？ 例えば「時が満ちたから学校に行こう」「時が満ちたので卒業しました」と言いますか？ あまり言わないですね。この言葉は、「神様の約束された時が来ました」と言う意味です。

私たちはみな、罪人です。罪は、最初の人間アダムとエバが神様の約束を破った時から、私たち人間が内に持っているものです。ですから、「僕は罪を犯したことがあります。悲しいけれど皆さんが「オギヤー」と生まれた時から心の中に罪をかかえているのです。神様は、アダムとエバが罪を犯した時から、罪人である私たちを救おうと計画しておられました。しかし、イエス様が来られるまでは、その救いの実現の時がまだ来ていなかったのです。

イエス様が来られることによって、救いの時がやって来たのです。イエス様もそのことをよくご存知でした。時が満ち、神様の救いの約束の時が来たことで、今、私たちはイエス様による救いを頂くことが出来るのです。

## 神の国は近づいた

続けてイエス様は「神の国が近づいた」と言われました。皆さんは神の国ってどのようなところだと思いますか？ 綺麗な景色や美味しい食べ物、楽しいゲームがいっぱいあって、いつまでも飽きないところでしょうか。

この神の国とは、神様の恵みが満ちているところです。イエス様は、神様の恵みに満ちた人でしたので、神の国はイエス様の中にあります。ですから、イエス様を心に受け入れる人の中に神の国は始められるのです。何と素晴らしいことでしょう。イエス様は、罪に苦しんでいる多くの人々を神の国に招くために宣教されました。神の国は近づきました。皆さんは、神の国に入っていますか？

### 悔い改めて福音を信ぜよ

神様の恵みがあふれている神の国は、イエス様によって始まりました。イエス様は皆さんのことも、恵みで満ちた神の国に招いておられるのです。

では、どのようにしたら神の国に入ることができるのでしょうか。それは、イエス様が言われたように、「悔い改めて福音を信じる」ことです。神の国に入っていない心は、罪でいっぱいです。私たちは心にあるものが口から出て来ます。また、心の中にあるものが行動となります。もし、皆さんの心の中に、友だちに対して「あの人間なんていなかったらいいのに」という思いがあるなら、口からはその友だちに対する悪口が出て来たり、友だち

をいじめたり、無視したりという行動が出て来たりします。罪があると友だちを傷つけるだけでなく、自分も傷つき苦しんでしまいます。ですから、自分の罪を正直に神様の前に悔い改める必要があるのです。悔い改めるとは「方向転換」することです。今まで神様に背を向け、罪の道を歩んで来たことをお詫びして、180度方向転換するのです。そして、私たちの罪のために十字架で命を投げ出し、3日目に死の力を打ち破ってよみがえられたイエス様を心の中で信じ受け入れるのです。

罪から自由にしてくださるイエス様を信じ受け入れるなら、イエス様が私たちの心に住んでくださいます。その時、イエス様にあつて心は恵みに満たされ、神の国は私たちの中に始まっていくのです。

### まとめ

皆さんの心はイエス様の恵みで満ちあふれていますか？ 悔い改めてイエス様を信じましょう。イエス様は、皆さんを神の国に招いておられます。

♪しゅにしたがいゆくは♪ (コ53、ホ87他)

# 聖書 ルカ17・20～21

## テーマ 神の国は私たちのただ中に

### 序論

(中島啓二)

パリサイ人がイエス様に〈神の国はいつ来るのか〉と尋ねたとき、イエス様は〈神の国は、見られるかたちで来るものではない〉と答えました。ここに、両者が思い浮かべているイメージのずれがありました。

### 一、神の国に対する誤解

パリサイ人は、「神の国」を目に見える領土を持った地上の国と思っていました。ローマの支配下で苦しい生活を強いられていた当時のイスラエルの人々は、その苦しみから民族を解放する救い主が現れ、その手によって地上に樹立される「神の国」を思い描いていたのです。

ここで神の「国」と訳されている言葉は、一番大まとの意味は「王権、王の支配」です。そこから派生して「王国、つまり王によって支配される領域」という意味になるのです。それなのに、このパリサイ人は、この一番大まとの意味を飛ばして、そこから派生した「目に見える国家」という意味でしか神の国を考えなかったのです。

神の国は、人によって支配される地上の王国ではありません。王国にとって一番大切なのは、誰がその国を統治するかです。ですから、神の国にとって一番大切なことは、そこに「神の統治、神の支配」があることなのです。

### 二、見えないけれども見える国

ですからイエス様は、『見よ、ここにある』『あそこにある』などとも言えない、さらに、〈神の国は、実あなたがたのただ中にあるのだ〉とおっしゃいました。一見イエス様は、神の国が人間の内面にあるものだとおっしゃっているようです。では、神の国は、現実世界とは関係のない、私たちの心の中だけのものなのでしょうか。しかし、新共同訳を見ると「神の国はあなたがたの間にある」と訳されています。これは、「人と人との間にある」ということ、つまり神の国は、人の心の中というよりは、人間同士の交わりや関わりの中に、さらには現実の世界にあるのだという意味にとれます。そのことから振り返ると、口語訳や新改訳の「あなたがたのただ中にある」という訳し方は、こちらの意味にも取れるような気がします。果たしてどちらが正しいのでしょうか。

結論から言うと、どちらも正しく、両方の意味が含ま

れていると言つてよいと思います。

救いは一面、内面的なものです。私たちが心の王座にイエス・キリストをお迎えするときに、救いが私たちに訪れます。私たちの内面の変革なくして、神の国は成立しないのです。ですから聖書は一貫して私たちの内面を重要視します。パリサイ人の外面だけの形式的な律法主義を批判し、心の割礼（ローマ2・29）を強調するのです。

しかし、イエス様は一人一人の個人の救いだけを指して神の国（神の支配）とおっしゃったのではないのです。信じる者同士の交わりの中に、その愛し合う姿の中に、神様が愛をもつて統治される様子が浮かび上がってくる、そんな目に見える「神の国」についてもイエス様はおっしゃいました。そして、それこそが「教会」なのです。

ちなみに『見よ、ここにある』の「見よ」と「神の国は、実に…」の「実に」は同じ単語です。「見よ」と言えないものについて語るときに、「見よ」という意味も持つ言葉が用いられているのです。ここに「神の国」の不思議な性質が表されていると言えるかもしれません。神の国は、見えないけれども見えるもの、その完成はまだ先だけれど、信じる者にとって既に現実の恵みなのです。

### 三、神の国は私たちの手の中に

ある注解者が「神の国はあなたがたの手の中に」という訳し方を提案しています。ここには、神の国の内面性と、神の国の現在性、可視性が両立されています。目に見えない神の国は、自動的に見えるようになるわけではありません。私たちが互いに愛し合い、また愛をもつて人々に神の国の良き知らせをお伝えするときに、初めて人々の目にも見えるものになるのです。

神の国は「既に／未だの国」と言われます。イエス様によつて神の国＝神の支配は既に始まりましたが、その完成は終わりの日まで待たねばならないという意味です。その完成のために遣わされるのが私たちなのです。

### 結論

イエス様が「神の国は、実にあなたがたのただ中にあるのだ」とおっしゃったとき、そこにいた人々の「ただ中」におられたのは、他でもないイエス様です。イエス様こそ神の国＝神の支配そのものなるお方なのです。天に昇られて今は目に見えないお方。しかし私たちといつも共にあると約束されるお方。見えないけれども見える、そう信じる者たちの手に、神の国は託されているのです。



## 研究資料

(中島啓一)

ルカは続編(使徒行伝)を書いた唯一の福音書記者であり、その神学の特長は、神の救いの歴史(救済史)において「教会の時」を強調する点にある。救い主を待ち望む旧約時代に続き、救い主によって「神の国」の到来が宣言された。しかし、それですべてが完成したのではなく、それから中間期としての「教会の時」が始まり、神の国の完成はその後の終末にまで持ち越されるのである。この「教会の時」こそが、今の私たちの時代、神の国は「既に(already)」到来したが、その完成は「未だ(not yet)」先という意味で「既に／未だの時」と呼ばれる時代、である。この時代に生きる私たちにとって、神の国の恵みは、未だ個人的な「お試し」のようなものにと過ぎないのだろうか。それとも、それは既に味わうことのできる現実の恵みなのだろうか。そのことを知るための鍵が、今日のテキストには示されているのである。

さて、ルカ17・21を日英の主要な訳で読み比べると、そこに多少の違いがあることに気付かされる。邦訳では「…あなたがたのただ中にある」(口語訳、新改訳)、「神

の国はあなたがたの間にある」(新共同訳)。英訳では「…あなたがたの内側にある(within you)」(KJV、TEV、NIV等)、「…あなたがたの間にある(among you)」(NRSV、NAB等)。このように、英訳で見ると、神の国を内面的・個人的なものと捉える解釈(within)と、現在の・共同体的なものと捉える解釈(among)とに分かれている。邦訳では、新共同訳は後者に属するが、口語訳、新改訳は前者とも後者ともとれる訳し方に思える。果たして神の国は、私たちの内側と、私たちの間との、いったいどちらなのだろうか。

## テキスト

## 20 神の国

〔ギ〕へ・バシレイア・トゥ・セウウ 一般に

「神の国」と訳されることが多いこの表現は、新約全体で68回、そのうちの38回がルカ文書(ルカ福音書と使徒行伝)で用いられている(他に〔ギ〕バシレイアだけで神の国を指す用例を含めると総計47回)。この〔ギ〕バシレイアを辞典で調べると、①王権、王室の力、王室の支配、王国、②王国、つまり王によって支配される領域、③特に、終末論的な概念としての神による王的支配、とある。ここからわかることは、〔ギ〕バシレイアの第一義的な意味は「王

権、王としての支配、統治」であって、「王国」はそこから派生したものだということである。一般に「神の国」という訳語が定着しているが、そこからはどうしても可視的、現在のな、あるいは政治的な国家を連想しがちである。しかし、イエスが語った〔ギ〕バシレイア・トゥ・セウは、そのような可視的な国家や領土を指すのではなく「神の支配」について言及しているのである。見られるかたちで〔ギ〕メタ・パレテレーセオース 哲学や科学、法律などの分野で用いられる単語で、きわめて実証的な用語。神の国はそうではないと言うのである。

21 見よ〔ギ〕イドゥ この語はこの節の中でもう一回用いられており、そこでは、**実に**と訳されている。この〔ギ〕イドゥは、もともと「見る〔ギ〕エイドン」という動詞の命令形で、それに鋭アクセントが付くと、この節での用例のように注目を促す間投詞になる。神の国の到来に關する、「〔神の国は〕〜とも言えない」という否定的部分と、「神の国は〜にあるのだ」という肯定的部分の両方で、同じ用語〔ギ〕イドゥ（「見よ」と「実に」）が用いられていることは興味深い。**あなたがたのただ中に**「ただ中に」は〔ギ〕エントス。辞典では、①〜の内側に（within、

inside）、②〜の間に（among）とある。ノーランドは、この二つの訳語のそれぞれの優位点を示しつつも、両者とも続く22〜37節との連携が上手くないことを指摘し、三番目の訳語として「〜の手の中に（in one's hands）」という訳語を提案している。釈義事典においても、以下のような同様の指摘がなされている。「ここでのエントスは…唯心論的・個人主義的な意味（あなたがたの内面に）、あるいは集合的な意味（あなたがたのただ中に、あなたがたの間に）…ではない。…イエスの回答は神の国が始まる時点を尋ねるファリサイ人らの質問（20a）に關連づけられており、この回答の否定文の部分（20b、21a）はその質問を建て方が間違つたものとして特色づけている。結びの肯定文の部分（21b）は質問者の（ただ受動的に待っているだけの）姿勢を能動的で個人的な努力へと変えるべきものである。」

以上のことを踏まえて聖書講解に進んで行きたい。

**参考図書** 注解書 Nolland (WBC) 他。その他 「時の中心―ルカ神学の研究」(コンツェルマン)、「ギリシャ語新約聖書釈義事典Ⅰ」(A Greek-English Lexicon of the New Testament and other Early Christian Literature 他

## 聖書

ルカ17・20～21

タイトル  
暗唱聖句

神の国はわたしたちの只中に  
神の国は、実にあなたがたのただ中にあるのだ。  
ルカ17・21

## 目 標

神の国が信じる者たちの間では既に現実  
の恵みであることを知る。

## 導入

(和田 治)

皆さん、世界地図を見たことがありますか？（出来れば地図か地球儀を見せながら）私たちの日本という国はどこ？ そう、ここにありますがね。お隣の国は？ 韓国ですね、ここです。イスラエルという国は？ はい、ここにあります。ではここで問題です。「神の国」はどこにあるでしょうか？ うーん、難しいですね。イエス様は仰いました。「ほら、ここにある』『あそこにある』とは言えません。」え？ じゃあ、神の国って想像の世界の国なの？ いいえ！ イエス様は続いて仰いましたね、「神の国は、あなたがたのただ中にあるのですよ」。それってどういうこと？ 今日はこの大切なことを学びましょう。

## 僕の、私の心の中に

これまで学んできたように、「神の国」は神様の恵みが満ちているところです。天のお父様の愛がいっぱいで、あふれているところなのです。イエス様は「わたしを信じるなら、あなたの心の中は父なる神さまの愛であふれるのだよ」と仰います。そうです、神の国はイエス様を信じている全ての人の心の中に、すでにあるのです！

「神の国」はイエス様が王様である国です。あなたがイエス様を信じているなら、あなたの心はイエス様が王様として治めて下さいます。時々、イライラや、怒りや、寂しさや恐れでいっぱいになってしまう私たちの心…。でも「イエス様、あなたが王様です。あなたの愛で私の心を守って下さい。治めて下さい！」とお願ひすることが出来ます。すでに心は神の国なのですから、必ずイエス様があなたの心も守って下さいますよ！

## 私たちのあいだに

でも、実はさらに大切なことがあるのです。それは、神の国が「人と人との間」にあるということなのです。今私たちはこうして一つのお部屋に集まっていますよね。お互いに関係のない人たちがただ一緒に居るのでしょうか、そうではありませんね。お互いの間に、イエス様を真ん中

にした「交わり」がありますよね。イエス様によって「つながっている」のです。イエス様は、神の国が「私たちのつながりの中」にある、という意味でも「あなたがたの只中にある」と仰ったのですね。

イエス様が今、私たちの真ん中に居て下さって、「○○君、○○ちゃん」とお名前を呼んでそっと肩に手を置いていて下さったなら、意地悪をしたりけんかをしたりはできませんよね。もしそれでもけんかをしたりすれば、なんだかとても変な感じ、イエス様がおられるところにふさわしくない感じがしませんか。目に見えませんがイエス様は実際にここにおられます。ここが神の国なのです。なら、イエス様の愛があふれる交わりが出来るはずではないでしょうか。うれしいですね！

### 神の国は見える？

このように、神の国は僕の、私の心の中にありますし、お互いの「交わりの中」、「つながりの中」にも確かにあります。ここでもう一度金言を言ってみましょう。「神の国は、実にあなたがたのただ中にあるのだ。」イエス様がこうおっしゃった時、そこに居たみんなの「ただ中」におられたのは、「イエス様」でしたよね。そうです、イエス様こそ

神の国そのもののなのです。イエス様は天に昇られる前に仰いました。「見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである」。やった〜！

でも、イエス様を知らない人たちは、どうやってイエス様を見るのでしょうか。実はイエス様は、信じる私たちを通してご自身を現したいと願っておられるのです。私たちがイエス様を王様として信じて従うなら、その私たちを見ると、人々はイエス様を見るのです。そして、私たちの交わりが、お互いを大切にし、優しくし、助け合い、愛し合っているなら、その姿を見て、人々はイエス様を、神の国を見るのです！

### 神の国はわたしたちの只中に！

マザーテレサが言いました。「大切なのは、どれだけ多くを与えたかではなく、それを与えることに、どれだけ多くの愛をこめたかです。愛とは、大きな愛情をもって小さなことをすることです」。わたしたちにもできますよね、だって、「神の国はわたしたちの只中に」本当にあるのですから！ さあ、小さな身近なことに愛を込めましょう、イエス様がなさったように。

♪神の国が心に♪(P&Wホザナ！8)

# 聖書 黙示録21・22・22・5 テーマ 神の国の完成

## 序論

(金井信生)

イエスを主と信じ、救われた者が目指すのは、神の国の完成、すなわち神と共に住む聖なる都です。黙示録の最後に記される都を学び、今主と共に歩む信仰の生涯が、そのまま結びついていることをおぼえます。

## 一、聖所である都

〈この都の中には聖所を見なかった〉のは、〈神と小羊とが、その聖所なのである〉からです。もはや人が神を探し求めたり、犠牲を携えて近づく必要がなく、神と人が一つ所にいるからです。

もともと、人は神と共に住み、交わりを持つ存在として造られました。しかしエデンの園から追放されて以来、神を探し求めてきました。神はイスラエルの民にご自身を啓示され、神の民にとって「あなたの祭壇のかたわらにわがすまいを得させてください。あなたの家に住み、常にあなたをほめたたえる人はさいわいです」(詩篇84・3・4)と、神に近く住むことが最高の願いでした。

ここに、主イエスを救い主と信じ、〈小羊のいのちの書に名をしるされている者〉に永遠の住まいが約束されています。この都は神の栄光が満ちているので、太陽や月の光も必要がありません。また夜がないので、門が閉ざされることはありません。ただし、キリストによる罪の赦しを受けず、罪を犯し続ける者はひとりも入ることができません。

永遠の都は世の終わりに実現する者ですが、すでにキリストの救いを受けている者にとっては、ある日突然移されるものではありません。「わたしたちは、生ける神の宮である。神がこう仰せになっている、『わたしは彼らの間に住み、かつ出入りをするであろう』」(Ⅱコリント6・16)と告げられているように、救われてからやがて永遠の都に入る時まで、神が共にいてくださり、世の光であるキリストが常に導いてくださっています。

## 二、いのちの水の川・いのちの木

聖なる都には〈いのちの水の川〉が流れ、〈川の両側にはいのちの木が〉生えています。いのちの水の川といのちの木も、エデンの園にあったものです。ただ、アダムとエバが神の言葉に従わなかったために、失われていた

ものです。

いのちの水は〈神と小羊との御座から出て〉おり、人生を命に生かす命にあふれています。またいのちの木の豊かな実は人の心に彩りや味わいを与えます。またその葉はいやす力があり、病も死も永遠の都には入り込むことはありません。

この恵みも、キリストを信じ従う者には、この世においてすでに与えられています。詩篇1篇には、主の言葉を喜び従う者が「流れのほとりに植えられた木」のように栄えることが歌われています。

またイエスは「わたしが与える水を飲む者は、いつでも、かわくことがないばかりか、わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠の命に至る水が、わきあがるであろう」（ヨハネ4・14）と約束されました。

### 三、礼拝の民

聖なる都に迎えられたのは礼拝の民です。これまで神の臨在に触れた者はあっても、〈御顔を仰ぎ見る〉ことの許された者はいませんでした。しかし、ここでは主を「顔と顔を合わせて」（1コリント13・12）礼拝するのです。この礼拝者たち、すなわちキリストの救いを受けてい

る者たちは、天にあるいのちの書に名が記されているだけでなく、その人自身に御名が記されています。ですからクリスチャンには、「この名によって神をあがめなさい」（1ペテロ4・16）と命じられているのです。

黙示録ではこれまで地上に起こる終末の混乱や悲惨と、天上の礼拝の姿とをそれぞれに見てきました。しかし、最後はすべての罪と悪は滅ぼされて、永遠の聖なる都と礼拝の民だけが残ります。

私たちはなおこの地上で、試練や誘惑の多い中を歩んでいきますが、礼拝に集うことが大きな恵みとして与えられています。地上での礼拝は不完全なところもありますが、天上の礼拝者と心を合わせて生ける主を仰ぎ、やがて永遠の御国での礼拝にそのまま迎えられていく深遠さがあります。主日の礼拝、家庭礼拝、個人のデボーションは御国の民である証しであり、永遠の都につながる確信と希望を得る時です。

### 結論

救い主イエス・キリストを信じて、神の国の完成を待ち望み、天に国籍を持つ礼拝の民として信仰の生涯を歩みましょう。



## 研究資料

(金井由嗣)

## 文脈と思想

黙示録については近年、死海文書をはじめとする同時代の諸文献の研究によって各種の象徴が意味する内容の多くが明らかにされており、それを踏まえた注解書や黙示録の神学に関する研究書が刊行されている。日本語で読める本としては岡山『小羊の王国』と同『ヨハネ黙示録注解』、ボウカム『ヨハネ黙示録の神学』が特に優れている。最初にこれらの書の総論を読んで、黙示録全体のメッセージを把握しておかれることをお勧めする。

黙示録の執筆目的は、迫害の中にある信仰者がこの世と妥協せずに戦い抜くよう励ますことであり、そのため神とキリストの究極的な主権が宣言され、勝利者への栄誉と来るべき新天新地のすばらしさが描き出されている。本日の個所はその新天新地の中心、神とキリストが支配する都「新しいエルサレム」の描写である。

## テキスト

21・22 全能者にして主なる神と小羊とが、その聖所黙示録の描く終末には、旧約のメシア預言の成就(神の

民イスラエルの回復)と、新約において啓示された神の御子・小羊イエス・キリストの王国という両面がある。終末におけるエルサレムの回復はイザヤ(52・1)、エゼキエル(40章以下)等の見た幻だったが、聖所(神殿)が存在しない聖都は彼らの理解を超えていた。神殿は神の臨在を象徴し、神を礼拝するための場所であるが、新しいエルサレムには主なる神と御子イエス・キリストが臨在しておられるため、聖所は必要ない。十字架によって神と人との隔ての壁が取り去られた結果、「顔と顔とを合わせて」神を見ることができるようになる(Ⅰコリント13・12、Ⅱコリント3・18)。神との隔てなき交わりこそが、救いの完成なのである。

23 日や月がそれを照す必要がない この表現は22・5でも繰り返され、強調されている。神の臨在は光そのものであり、他の光を必要とはしない(イザヤ60・19・20)。そこでは「闇」に象徴されるすべての苦悩も存在しないのである(21・3・4)。

24 諸国民は…地の王たちは… 新しいエルサレムでは、神の民に加えられた諸国民が登場する。終末のメシア王国が諸国民を支配するとの思想は旧約にも見られる

が(イザヤ60・4～11)、ここでは異邦人もキリストにあって神の民、新しいイスラエルとされている(イザヤ60・3、ヨハネ10・16、エペソ2・14～19)。旧約のメシア預言に見られたイスラエル中心の神の国ではなく、イスラエルを長子として全人類が招かれている神の国の幻である。

25 都の門は、終日、閉ざされることはない 直接には「夜がない」ことが理由であるが、都が諸国民に対して文字通り「開かれている」ことの表現でもある(26、イザヤ60・11参照)。

27 小羊のいのちの書に名をしるされている者だけ 全人類が招かれている神の国の広さ(普遍性)と同時に、汚れた者は入れないというその聖さ(排他性)も示されている。終わりの日に全人類・全被造物が救われるという聖書の福音は普遍的な救いのメッセージであるが、普遍救済主義(信じなくても救われる)ではない。黙示録が繰り返す、この世との妥協や背教を戒めていることも思い合わせる必要がある。

22・1～2 いのちの水の川、いのちの木 エゼキエル47章の預言の成就であるが、創世記2章のエデンの園の

回復というメッセージも強調されている。新天新地・新しいエルサレムは最初の状態への復帰ではなく、さらに良い天地への更新である。

2 諸国民をいやす いのちの木の祝福が全ての人に開かれていることを示す。民族による差別のない、キリストにある真の平和の確立である。

3～4 彼を礼拝し、御顔を仰ぎ見る 神の民は神との隔てのない交わり(礼拝)に招かれている。

5 彼らは世々限りなく支配する 「支配」は王としての支配を表す単語である。キリストの王国の民とされた人は、その王権の地上における代理者として生きる。創造における「地の支配」(創世記1・26)という人間本来の使命の回復である。

参考図書 岡山英雄『小羊の王国』、同『ヨハネ黙示録注解』、R. ボウカム『ヨハネ黙示録の神学』、L. モリス(ティンデル)、G. E. ラッド『終末論』、G. E. Ladd, *A Commentary on The Revelation of John*, G. K. Beale (New International Greek Testament Commentary), G. R. Osborne (Baker Exegetical Commentary), D. E. Aune (Word)。

## 聖書

黙示録21・22～22・5

## タイトル

光あふれる神の国！

神の栄光が都を明るくし、小羊が都のあ

かりだからである。

黙示録21・23

## 目 標

神の国の光景の素晴らしさを知り、キリストを信じてそこに入る者となる。

## 導入

(松浦みち子)

皆さんは、天国ってどんなところかなあ、と考えたことありますか？ ある時、ひとりの人が二つの部屋を見学しました。それぞれの部屋には同じように素晴らしいご馳走が並べられています。ひとつの部屋の人たちは顔色も悪くイライラと互いにいがみあっています。もう一方の部屋の人たちは顔色もよく、ニコニコと楽しそうにしています。どうしたのでしょうか。それぞれの部屋には、1メートルもあるフォークとスプーンしかありません。イライラの人たちは一生懸命食べようとしますが、自分の口に食べ物を入れることができません。一方、ニコニコの人たちは自分の口に食べ物を運ぶのではなく、相手に食べさせてあげるのでした。また自分も相手から食

べ物を口に入れてもらうのです。天国は、自分が自分が「我」を張るところではなく、相手を思いやって生きるところなのですね。それでは喜びと楽しみが満ち溢れた天国の秘密を聖書から学びましょう。

## ヨハネの黙示録

聖書の最後の書は、ヨハネの黙示録と言います。イエス様の弟子ヨハネがパトモス島という所で過ごしている時、神様が天国の様子を見せて下ったのです。ヨハネは随分年をとっていましたが、「見たことをきちんと書いておきなさい」と、言われたように、神様が見せられたことをしっかりと見、間違えないように気をつけて書いたのですよ。ヨハネが見た光景は、今までだれも見なかったような素晴らしいものでした。それとともにヨハネはイエス様との最後のお食事の時のお約束を思い出していました。「あなたがたのために場所を用意しに行くのだから。そして、行って、場所の用意ができたならば、またきて、あなたがたをわたしのところに迎えよう。わたしの所におあなたがたもおらせるためである」(ヨハネ14・2～3)。ああ、そうだったんだ。イエス様の約束はこのことだったんだと思いました。

## 新しい天と新しい地

ヨハネは何を見たのでしょうか。今私たちが生きている世界の天と地は過ぎ去って、全く新しい天と地を見ました。そして、聖なる都エルサレムが天から下ってくるのを見ました。ヨハネが見た天の都の光景は口で言い表せないほど素晴らしいものでした。この天の都はきらきら光り輝く美しい宝石で飾られた城壁で囲まれ、土台にも宝石が散りばめられていました。都の大通りはすきとおったガラスのような純金でできていました。また、都の大通りの中央を流れる「いのちの水の川」は、水晶のようにきらきら輝いていました。その川の両側には、いのちの木があつて、いろいろの実を結び、その実は毎月実つて、青々とした木の葉は人々を癒します。もう、柿泥棒もりんご泥棒もいないのです。だれでも、いつでも好きな時に、自由に食べる事ができるのです。あー、何て素敵なところでしょう。また、この都には神様を礼拝する聖所はありません。神様ご自身とイエス様がいつもそこにおられるからです。太陽も月も夜もありません。神様の栄光が都を照らし、小羊が都のあかりとなっているのでまぶしいほど明るく輝いています。イエス様が一緒に

いてくださるので苦しいこと、いやなこと、悲しいことありません。みんな仲良くイエス様の周りに集まって賛美し喜び楽しく過ごすのです。そんな素晴らしい天国に入れていただきたいですね。

### 小羊のいのちの書

天国には夜がなく、いつでも入れるように門は閉じられることはありません。いつもイエス様がみんなの来るのを待っていていらつしやいます。では、誰がこのすばらしい天国に入れるのでしょうか？ 小羊のいのちの書に名を記された人だけです。つまり、イエス様の十字架を信じ罪ゆるされた者だけなのです。あなたは、自分の名前がいのちの書に書いてあると思いますか。よくわからないと思う人、はいっ、ときっぱり返事ができる人、いろいろだと思いますが、一人残らずイエス様を救い主と信じ天国に入れていただきますように。

わたしたちは、いつ家族や友達にさよならをしなければならぬ時が来るかも知れません。でもいのちの書にあなたの名前が記されているなら大丈夫。いつでもイエス様のおられる天国で永遠に生きることができるようです。♪まもなくかなたの♪（新聖歌475、ふ57、イン107他）

2月

26日

礼拝メッセージ例

# 聖書 ヨハネ15・12・17 テーマ 最大の愛

## 序論

(石田高保)

驚くべきことに、神様は私たちと親しい友人になりたいと願っておられます。人がその友のために自分の命を捨てること、これよりも大きな愛はない。あなたがたにわたしが命じることを行うならば、あなたがたはわたしの友である。主はご自分の命を十字架に投げ出すことによって、私たちをどれほど愛しているか、どれほど大切に思っているかを示して下さいました。神に愛されていない人は、この世界に一人もいません。神様との関係を表現する言葉として馴染み深いのは、父と子、主と僕、羊飼いと羊などではないでしょうか。しかしイエス様は「わたしはもう、あなたがたを僕とは呼ばない。僕は主人のしていることを知らないからである。わたしはあなたがたを友と呼んだ」、天地万物を創造した全知全能の父なる神様が、私たちのレベルまで降りて来られ、何もかも話し合える親友になって下さるとは、誰が想像できたでしょうか。アブラハムやモーセは「神の友」と

呼ばれ、エノク、ノア、ダビデ、ヨブも神と親しく歩みました。今、私たちも神様との友情を深めることができるのです。ではそのためには・・・

## 一、神様と会話の祈りをする

私たちはいつでも、どこでも、神様に呼びかけ、語りかけることができます。「絶えず祈りなさい」とはそのことを言っています。もちろん、神様と二人だけになって聖書を読んで祈る習慣は身につけたいものです。神様もその時間を楽しみにしておられます。しかし神様は、私たちと一日中、一緒に過ごしたいと願っておられます。ユダヤ人は一日3回、イスラム教徒は5回祈るようですが、クリスチャンは「絶えず祈れ」ですから一日中です。何をしても、その場に神をお招きし、その臨在を意識することです。1コリント10・31「だから、飲むにも食べるにも、また何事をするにも、すべて神の栄光のためにすべきである」、仕事に没頭している時でも、勉強している時でも、車を運転している時でも、買い物をしている時でも、家事をしている時でも、趣味に打ち込んでいる時でも、折に触れて「イエス様！」と呼びかけるなら、そこで神様と一緒に過ごすことになります。ぜひ、打ち解けた短い会話のよう

な祈りをしてみてください。「わたしと共にいてくださって、ありがとうございます」、「あなたはわたしの主です。わたしはあなたのものです」、「これから出かけますが、一つよろしく願います」、「わたしを悪魔の誘惑攻撃から守ってください」、「主よ、あなたを信じます」など。さて、絶えず祈るために、できることはどんなことでしょうか。

## 二、みことばを思いめぐらせる

神様は私たちの友として、ご自分がどれほど私たちを愛しているか、どんなに恵み深いかを教えたいと願っておられます。また神様は私たちに賢く生きるための知恵を与えたいと願っておられます。それは聖書の言葉を通してです。

かつて神はアブラハムに、ソドムとゴモラにさばきを下さなければならぬことを伝えました。創世記18・17「わたしのしようとする事をアブラハムに隠してよいであらうか」。また神は預言者エレミヤに、国の将来に起きる出来事を教えてくださうと祈るように言われました。エレミヤ33・3「わたしに呼び求めよ、そうすれば、わたしはあなたに答える。そしてあなたの知らない大きな隠されていることを、あなたに示す」、神が必要と認め

れば、未来に関することも教えてくださいます。人類のおおよその未来については、黙示録に記されています。しかし実際のなところとしては、日常生活の中で、どのように人と関わったらいいか、さまざまな課題にどう取り組みでいったらよいかという知恵を必要としています。それを神様はみ言葉を通して教えようとしておられるのです。私たちがみ言葉を思いめぐらす習慣を身につけると、神はその知恵を与えてくださるようになります。折にふれて気づきが与えられるようになります。人との関わりにおいて、タイミングを外さなくなります。そもそも私たちが神から選ばれたのも、私たちをおして神の栄光が現されるためです。へまた、あなたがたがわたしの名によって父に求めるものはなんでも、父が与えて下さるためである」。

## 結論

主日の礼拝で開かれたみ言葉を一週間かけて覚え、折にふれて思いめぐらしましょう。また自分自身と生活に当てはめてみましょう。それを信仰の友との間で分かち合ってみましょう。さて、折にふれてみことばを思いめぐらすために、どのような工夫ができるでしょうか。



## 研究資料

(小平徳行)

ここにはキリスト者相互の関係について記されている。キリストのうちにとどまり、キリストがご内住下さるならば、互に愛し合うように導かれる。

## テキスト

12 わたしのいましめは、これである 10節のいましめがここで取り上げられ、明確にされている。主の愛のうちにとどまるために、また主につながり続けるために必要なことは、主のいましめを守ることである。そのいましめの第一のものが、互に愛し合うことであつた。わたしがあなたがたを愛したように 主の愛は、私たちが互に愛し合うことの根拠であり、その力の源泉であり、その愛の模範である。キリストは、私たちがまだ罪人であつた時に、また私たちが敵であつた時に、愛して下さつた(ローマ5・8、10)。

13 この言葉は、一般的なことわざではなく、12節の主の愛の説明であり、十字架の愛をさしている。これよりも大きな愛はない これが最大の愛として、互に愛することの最高のあり方、愛のモデルを示している。命を捨

てる これは殉教の死を遂げることや、身代わりに死ぬという意味においてのみ理解する必要はない。捨てる(ギ)ティセーミ)は「投げ出す、差し出して提供する」などの意味があり、自分の命を自分だけのためにではなく、隣人にささげられたものとして生きていくことが含まれている。

14 あなたがたにわたしが命じることを行うならば、あなたがたはわたしの友である ここには主の友であることがいかにして実現されるのが語られている。友であることは主の命じることを行うことにおいて遂行される。神はアブラハムを「わが友」と呼んだ(ヤコブ2・23)。アブラハムは友として神と交わりをもつただけでなく、ひとり子イサクをささげよとの命令でさえも従つた。友(ギ)フィロス)は愛する(ギ)フィレオー)から来ている。ゆえに主が「友」と言う時、「愛される人々」と言う意味が込められている。また、本節と14・15、21と比べると、友となることと愛することとは同義であることが分かる。

15 わたしはもう、あなたがたを僕とは呼ばない。僕は主人のしていることを知らないからである 当時、主人

が僕に何かを相談することはなく、僕は自らにゆだねられて、いる働きがどのようなものであり、また何を目標としているのか、どのような意味があるのか知らずに、ただ主人の命ずるままを行うことしかできなかった。しかし友であるとは、強制されてでも機械的でもなく、主のことばを悟り、喜んで行う者ということである。わたしはあなたがたを友と呼んだ 神が私たちに近づき、引き寄せて下さらない限り、威光と尊厳に満ちておられる聖なる神に対して親しげに近づくことは本来でできることではない。したがって、主が私たちを友と呼んで下さることは、大きな恵みであり、そこに神のへりくだりと御愛とが現れている。わたしの父から聞いたことを皆、あなたがたに知らせたからである 弟子たちを友と呼んだ理由がここに挙げられている。主は最後の晩餐の席上でその胸中を残りに告げられた。神はアブラハムに対して、ご自身がなさろうとしておられることを前もって告げられた(創世記18・17)。またモーセに対して、自分の友と語るように顔を合わせて語られた(出エジプト33・11)。主は私たちにご自身の深い心を知らせることのできるような関わりをもつことを望んでおられる。

16 あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだのである 主との親しい交わりに導かれたのは、弟子たちが選び取った結果ではなく、主が弟子たちを選んで、その使命を託すべき器とされた結果である。救いはこの選びによるのであり、恵みの賜物である。あなたがたが行って実をむすび 主が選んでくださった目的は、キリスト者が主の弟子として実を結ぶことである。その実の一つが、主がなされたように兄弟姉妹を愛することである。その実がいつまでも残るためであり 実の永続性は教会の永久的な性格を示唆している。あなたがたがわたしの名によって父に求めるものなんでも、父が与えて下さるためである 私たちに豊かな実を結ばせて下さるのは神である。実を結ぶ事ができるのは、神が御子の名による祈りに答えて下さることによる。実を結ぶ生涯には深い祈りが伴う。

参考図書 村瀬俊夫「ヨハネの福音書」『新聖書註解・新約1』、B・F・バックストン『バックストン著作集第8巻 聖書講解Ⅳ―ヨハネ福音書講義下』(以上、いのちのことば社)、G・R・オデイ『NIB新約聖書注解5・ヨハネによる福音書』(ATD・NTD聖書注解刊行会)他。

## 聖書

ヨハネ15・12～17

## タイトル

すばらしい最高の愛！

## 暗唱聖句

人がその友のために自分の命を捨てること、これよりも大きな愛はない。

ヨハネ15・13

## 目標

十字架に示されたキリストの愛を知り、愛に生きる者となる。

## 導入

(松浦みち子)

皆さんの聖書は日本語で書かれていますね。しかし、もともと旧約聖書はヘブル語、新約聖書はギリシャ語で書かれています。「愛」という語は日本語ではひとつですが、ギリシャ語は4種類に分けられるのです。①エロス(男女関係の愛) ②フィリア(友情愛) ③ストルゲ(親子愛、師弟愛) ④アガペー(神様の愛、無条件の愛)

神様の愛、アガペーを学びましょう。

## 神様の愛とは？

聖書の中にはつきりと書いてあります。「しかし、まだ罪人であった時、わたしたちのためにキリストが死んで下さったことによって、神はわたしたちに対する愛を示され

たのである」(ローマ5・8) このように、わたしたちの罪をあがなうためにイエス・キリストが十字架にかけられ血を流し、死なれたことで神様はわたしたちに対する愛を示されたのです。

## 新しい戒めを与えられる

イエス様は弟子たちに、「わたしは、新しいいましめをあなたがたに与える。互いに愛し合いなさい。」(ヨハネ13・34)と、最後の晩餐の時におっしゃいました。いよいよこの世を去る時が近づいた、わたしがいなくなつて後、互いに愛し合つて生きていくようにと、語られたのです。わたしはあなたがたにお手本を示しましたよ。「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。人がその友のために自分の命を捨てること、これよりも大きな愛はない」(ヨハネ15・12～13)のです。わたしはあなたがたを友と呼びました。そして、あなたがたをわたしは選んで友として立てたのです。父から聞いたことで隠していることは何もありません。すべてを知らせました。わたしはこの世からいなくりますが互いに深い絆で結び合わされ、豊かに実を結び、喜びのうちに歩むようにと励ましてくださいました。わたしたちもイエス様の十字架の

3月

## 5日 礼拝メッセージ例

愛をしつかりと心に刻みつけ、友のため、祈り、助け、励ます者と変えられましょう。愛し合う姿は、わたしたちがイエス様の弟子であることを、世の人が認めるしとなるのです。

## ドイツ画家デューラー「祈りの手」

有名な「祈りの手」のエピソードをお話ししましょう。今から五百年ほど前、ドイツのある町にデューラーとハンスという若者がいました。二人とも貧しい家に生まれ小さい頃から画家になりたいという夢をもっていました。しかし、貧しくて絵具や筆などの画材を買うお金がありません。ある時、ハンスがデューラーに一つの提案をしました。「このままでは二人とも画家にならないだろう。僕たちのどちらかが働き、そのお金で一人ずつ交代で勉強しよう。僕が先に働くからデューラー、君が先に勉強してほしい」。デューラーはハンスの言葉に感謝して、イタリヤのベネチアに勉強に行きました。ハンスは、お金のたくさん稼げる炭鉱に行つてハンマーを振り続け、せっせ、せっせとお金を送りました。一年二年と時は流れ、やっとデューラーは画家として認められ、売れた絵のお金をもって今度はハンスの番だと急いで帰ってきました。二人は手を取り合つて

喜びました。ところが、ハンスは「おめでとう。本当によかった。でも僕はもうだめなんだ。炭鉱の仕事で指も曲がり、手も震えて、絵筆も握れないんだ」。デューラーはショックを受けて「僕のために：君は犠牲になって：すまない」とフラフラとハンスの家を出て行きました。自分の成功が友だちの夢を奪つたことを思い悩みながらも、もう一度ハンスを訪ねました。「何かできることはないだろうか。少しでも償いがしたい」とドアを開け中に入ると、祈りの声が聞こえてきました。「神様、デューラーはわたしのことで傷つき、苦しんでいます。どうか、彼がこれ以上苦しむことがありませんように。そして、わたしが果たせなかった夢を彼が叶えてくれますように。あなたの守りと祝福がいつもありますように」。祈りが終わったあと、デューラーは涙ながらにハンスに懇願しました。「君の手を描かせてくれ。君のこの手のおかげで、今の僕はあるんだ。君のこの手の祈りで僕は生かされているんだ！」デューラーは、自分のために犠牲を払って働き、祈り続けてくれた友だちの手を描いたのです。（祈りの手の絵を用意して下さい）

♪両手いっぱい愛々（新聖歌483、ホ146、イン41他）

# 聖書 ヨハネ12・20～28 テーマ 一粒の麦として

## 序論

(石田高保)

戦後の日本は国民が一粒となって経済を成長させるという使命に生きてきましたが、これも今や過去のものとなり、他の使命を求めてさまよっているようです。いったい時代に翻弄されない使命はないものでしょうか。使命は英語でミッションと言ひ、任務とか、伝道という意味もありますが、あなたのミッションは何でしょうか。

## 一、イエス様の使命

しゅろは旧約聖書では「なつめやし」と訳される常緑樹で、繁栄の象徴とされていました(詩篇92・12)。ヨハネは黙示録7・9で、しゅろの枝を持った群衆が神を賛美している姿を描いています。今日の個所でも群衆、おそらくガリラヤから逾越祭に来ていた巡礼者たちは、詩篇118・25～26を引用し「ホサナ、主の御名によってきたる者に祝福あれ」と叫んでいます。ちなみにホサナは「お救いください」という意味のヘブル語です。主のガリラヤでの活躍を知っていた人々や、ラザロの復活を見聞し

ていた人々は(17～18)、主が世俗的な意味の王となり、奇跡的な力をふるってローマの支配から民族を解放してくれることを期待していました。しかし、その後の言動からわかるように、主はその期待に応えようとはせず、かえって主はそれと正反対のことを考えておられました。戦争に勝利した王は普通、馬に乗って凱旋するのですが、主は「ろばの子を見つけて、その上に乗られた」。ろばは、馬よりもはるかに小さく、力も見栄えもありません。ろばの子ならなおさらです。ゼカリヤは救い主の使命を知った上で「見よ、あなたの王はあなたの所に来る。ろばの子である子馬に乗る」と預言しました(ゼカリヤ9・9)。それに続けて、「わたしはエルサレムから軍馬を断つ。彼は国々の民に平和を告げ」(同9・10)と記しています。エルサレム入城の時、イエス様を政治的な王と考えていたのは、群衆だけではなく、弟子たちも同じでした。しかし「イエスが栄光を受けられた時」(16)、つまり、十字架、復活、昇天の後に、弟子たちはゼカリヤがイエス様について預言していたことに気がついたのです。主の使命が政治的な解放ではなく、罪からの解放であったことは明白です。

## 二、主の弟子の使命

主に敵対していたパリサイ人が「世をあげて彼のあとを追って行った」(19)とため息をつくほど、イエス様の人気は高まってゆきます。さらに巡礼に来ていたギリシヤ人たち、割礼は受けていないがイスラエルの神を信じていた人々も「イエスにお目にかかりたい」と訪ねてきます。しかし今や主の覚悟されていた「時」が来しました(2・4、7・6参照)。十字架においてユダヤ人だけでなく、ギリシヤ人をはじめ全人類の罪の身代わりになるという神の時が来たのです。それは主が一粒の麦になることによって、初めて実現することにはかなならないません。神であるキリスト(一粒の麦)は、人となってこの地上にきた(地に落ちた)。さらに十字架で死なれるとき、豊かに実を結ぶ(全人類の救いとなる)。これは、二千年前、文字どおりに実現しました。しかしこの真理は、単にイエス様の場合だけではありません。〈自分の命を愛するものはそれを失い、この世で自分の命を憎む者は、それを保って永遠の命に至るであらう〉、主に従う者たちも〈この世で自分の命を憎む者は、それを保って永遠の命に至る〉のである。この場合、憎むとは「第一

としない」という意味です。自分ばかりを大切に生き方をやめるということ。一粒の麦が死ぬとは、麦としての形を失うことを意味します。しかし形は失われても、何十倍もの収穫となって実を結び、命は次の世代に受け継がれるのです。

## 結論

しゅろの枝になって、主を賛美することは素晴らしいことです。ろばの子のように主のご用に用いられることも幸いです。しかしもつと大切なのは、一粒の麦になって死ぬことです。私たちも周りの人のために自分を使う生き方にチャレンジするとき、豊かに実を結ぶことができます。身の周りの小さな十字架を選び取ることができます。たとえば損得を越えて人を助ける、好き嫌いを越えて親切にすること、遺恨を越えて人を赦すこと、煩わしさを越えて人の話に耳を傾けることなどです。そのように一粒の麦となって死ぬとき、神が力強く働いてくださいます。〈更にそれをあらわす〉たとい損になることでも、そのような生き方を選ぶことがキリストの弟子の使命ではないでしょうか。さて、主から示されているあなたの使命、ミッションは何でしょうか。



## 研究資料

(宮澤清志)

## テキスト

20 **ギリシヤ人** この言葉をもって、必ずしも人種としてのギリシヤ人を意味するわけではない。この言葉にはいくつかの意味があるが、ユダヤ教に改宗した異教徒であったか、あるいはユダヤ教に理解を持つ「神を恐れる異邦人」(使徒8・27)かのいずれかであったものと推測される。いずれにしても、ヨハネがこの表現をここに示したのは、イエスの御わざが、同胞イスラエルから異邦人に移ることの序曲であり、その意味で新しい時の始まりを告げる注目すべき出来事なのである。

21 **彼らはガラヤのベツサイダ出であるピリポのところ**にきて このギリシヤ人たちがなぜ直接イエスのもとにではなくピリポの所に來たのか、はっきりした理由はわからないが、ピリポとアンデレの名が記されていることを考えると、この二人がギリシヤ的な名前の持ち主であって、またギリシヤ人と何らかのつながりがあったのではないかと推測できる。あるいは、次の節も含めて理解すると、イエスの福音がその弟子たちを経由してはじ

めて彼らに届いたのであり、この事はイエスの深い必然であったと理解する学者もいる。含蓄のある黙想である。**君よ**(ギ)キユリエ) 通常「主」と訳される言葉である。この言葉を用いることによって、主と使徒たちに対する尊敬の思いを表したものであろう。**イエスにお目にかかりたいのですが** ある英訳聖書では、「イエスにお目にかかれるとよいのですが」と、日本語訳より少し弱く訳されている。しかし、なぜ彼らがイエスにお目にかかりたいのか、その動機は定かではない。単なる好奇心からであったかもしれない(ルカ19章のザアカイ他)。

23 **人の子が栄光を受ける時がきた** この文の中心は「時がきた」である(ギリシヤ語の語順ではこの言葉が最初にある)。ヨハネはこれまで繰り返し「わたしの時はまだきていません」と語ってきた(2・4、7・6、8・20)。しかしやがてその「時」がくることを、慎重に語ってきた。そして時いたって「人の子が栄光を受ける時がきた」と語る。それはイエスの十字架の時であり、完成の時である。この宣言を聞いて、群衆たちは、いよいよローマの支配を打ち破り、イスラエルの王国を樹立する栄光の時の到来を夢見たに違いない。

24 よくよくあなたがたに言うておく イエスが非常に重要な真理を語る時にしばしば用いる表現。一粒の麦が地に落ちて死ななければ… よく知られた自然の事例をもって、真理を説明する。キリストの十字架の死は、この世に命をもたらすものである。イエスにおける栄光の時とは、自らが栄光を受ける時ではなく、人々の栄光のために自らを十字架にささげる贖いの死の時であった。

25 この逆説の言葉もしばしば福音書において語られてきた（マタイ10・39、16・25、マルコ8・35、ルカ9・24、17・33）。自分の命 この「命」（ギ）プシュケーは肉的生命であり、この命によってのみ生きようとする者は、永遠の命 を失うのである。こちらの「命」（ギ）ゾーエー）は、神の国の生命、霊的生命である。

27 この節は、ヨハネのゲツセマネとも呼ばれている箇所である。心（ギ）プシュケー） 25節の「命」と同じ言葉である。あるがままとしての人間の心は、死を前にして悩みを禁じることはできず、動揺せざるを得ない。ゲツセマネにおける「わたしは悲しみのあまり死ぬほどである」（マタイ26・38）という言葉と同じである。それは肉体的な死の恐怖でなく、罪と死の重荷を一身に背負っ

た暗黒の世界がイエスの心を支配しているのである。父よ、この時からわたしをお救い下さい 人間イエスの叫びであり、ゲツセマネにおける「この杯をわたしから取りのけてください」（マルコ14・36）の意味を持つ言葉である。しかし、わたしはこのために、この時に至ったのです イエスはただ十字架の一点を見つめていた。

28 父よ、み名があがめられますように この祈りこそがイエスの祈りの根源であり、私たちの祈りのはじめでなければならぬ。天から声があった 福音書は、三度、天からの声を記述している。イエスのパプテスマ（マルコ1・11他）と変貌山（マルコ9・7他）とこの個所である。いずれもイエスの生涯においては転機的な出来事といえよう。そしてヨハネはこの出来事をイエスの転機的な出来事と見たのである。わたしはすでに栄光をあらわした。そして、更にそれをあらわすであろう イエスの十字架への道が、神の定められた道であり、神のみこころにかなう道であることを表している。

参考図書 A. T. Robertson 「Word Pictures in the New Testament」 (Broadman) 、ビ・エフ・バックストン「ヨハネ傳講義」（バックストン記念霊交会）他

## 聖書

ヨハネ12・20～28

## タイトル

一粒の麦

## 暗唱聖句

一粒の麦が地に落ちて死ななければ、それはただ一粒のままである。しかし、もし死んだなら、豊かに実を結ぶようになる。  
ヨハネ12・24

## 目標

一粒の麦として死んでくださったキリストによる救いを受け取る。

## 導入

(松浦みち子)

一粒の麦の種から何粒くらいの麦が収穫できるでしょうか？ ある新聞記事で一粒の米から398粒もの実ができた記事がありました。すごい数ですね。じゃがいもも一個の種芋からたくさんのが育ってきます。でももともとの種や種芋はどうなるでしょう。腐って跡形もなくなってしまう。死ぬことなしに新しい命が生きることはないのですね。

## 時が来た？

イエス様は過越の祭りの数日前に「時が来た」と謎めいた事をおっしゃいました。何の時が来たのでしょうか。

ちょうどエルサレムの町は各地から大勢の人が集まっていたにぎわっていました。そのうちのギリシヤ人の数名がイエス様に面会を申し込んできたのです。それまで、イエス様はユダヤ人に伝道してこられました。ユダヤ人以外の人がイエス様に会いたいといって来たことを心に留められ、そして言われたのです。「人の子が栄光を受ける時がきた」。これはイエス様がすべての人の救い主として十字架で死ぬ時がいよいよ来たということをあらわしています。当時の人々は、イエス様がイスラエル王国を再び建て上げてくれるに違いないと思っていました。エルサレムにイエス様がロバの子に乗って入城された時、人々は「ホサナ、ホサナ！」と叫び、王として歓迎しました。しかし、イエス様の時は、十字架の死によってもたらされる罪と死からの勝利の栄光の時のことでした。

## 一粒の麦のたとえ

「よく聞きなさい」と言って一粒の麦の話を読みました。「麦の種は地面にまかれて死ななければ、新しい芽は出てこないでしょ。しかし、死んだなら芽が出て、実を結ぶようになります。そのように、わたしは自分の命を捨て、この世に新しい命を与え、救うのです」と、ご

3月

# 12日 礼拝メッセージ例

自分の使命を説き明かされました。そして、ひとりひとりが、自分中心でなく、神第一の生き方をするなら永遠の命を得ることができると教えて下さいました。

## イエス様の祈り

お話をしながら十字架の死を思うイエス様のお心はどんなに辛く苦しかったでしょう。「今わたしは心が騒いでいる」と心の内を明かされました。「父よ、この時からわたしをお救い下さい」と、できるならこの時が過ぎ去るようにとも思われたことでしょう。しかし「父よ、みな名があがられますように」と祈られ「わたしは、このために、この時に至ったのです」ときっぱり十字架を受け入れられました。その時、天から声があり「わたしはすでに栄光をあらわした。そして更にそれをあらわすであらう」と神様の約束の声が響きました。イエス様は、神様の救いのご計画を実現するために十字架を目指して自分から進んで行かれたのです。わたしたちは、一粒の麦として死んでくださったイエス様の救いを受け入れ、永遠の命をいただく者となりましょう。

## 一粒の麦となった人のお話

一九五四年九月北海道を襲った台風で、青函連絡船洞

爺丸が沈没するという事故がありました。犠牲者の中にA・ストーンとD・リーパーという宣教師がいました。彼らは、救命道具のない婦人たちに自分たちの救命具を外して渡し、こう言ったそうです。「私たちはイエス様を信じて救われています。けれどもあなたがたは救われていません。助かったら、きつと教会へ行って、救われてください」。二人の姿は荒れ狂う波間に消えました。助かった婦人たちは後、教会に行って救われたそうです。

また、北海道では、塩狩峠に差し掛かった汽車が突然暴走し、最後部の連結車が逆走しはじめ、そのままでは転覆してしまうという事故が発生しました。ちょうど、汽車に乗り合わせていた長野政雄という青年は、鉄道の職員でもあったので、ありとあらゆる努力をして客車を止めようとしますが、すべてが無駄でした。彼は、イエス様を信じる人でした。一粒の麦となって死んでくださったイエス様を思い浮かべました。そして祈りつつ乗客の命を救うため、線路に身を投げ命を差し出したのです。私たちも一粒の麦となって人を生かすことができるなら何と幸いなことでしょう。

♪もちいたまえわが主よ (ホ113)

# 聖書 ヨハネ13・1～15 テーマ 洗足の恵み

## 序論

(石田高保)

洗足の出来事を通して、人の成長のために仕える人が、人の上に立つのにふさわしく、影響力のある人物となることを教えられます。

## 一、イエス様に足を洗っていただく

イエス様のし始めたことを見て、弟子たちはみんな啞然あ然としました。なぜなら上着を脱いで手ぬぐいを取って腰に巻き、水をたらいに入れて人の足を洗い、それを手ぬぐいで拭いたからです。それは奴隷のする仕事であって、決して自由人、まして教師のする事ではなかったからです。ペテロをはじめ弟子たちはどんなにか戸惑い、畏れ多く感じたことか想像に難くありません。

なぜイエス様はこのような度肝を抜くことをされたのでしょうか。いわゆる洗足の出来事は、14節に記されているように、弟子たちに互いに足を洗い合うべきことを教えた「手本」実物教訓というだけではないようです。それならば最後の晩餐まで待つことなく、もっと前に弟子の足を

洗ってもよかったからです。十字架の前夜にこのことをされたのは、これから流すイエス様の血が、弟子たちの、そして全人類の罪を洗いきよめる力のあることを示すためだったからです。

まずイエス様には、ご自分の死が近づいていること、いよいよ十字架にかかって救いの道を開く時の間近なことがわかっていました。〈自分は神から出てきて、神にかえろうとしていることを思い〉。奴隷の格好をし、その仕事をするることによって、ご自分が究極の奴隷であることを示そうとしました。それは自分の罪のない命を差し出すことによつて、人類に救いの道を開く十字架の姿です。〈最後まで(徹底的に)愛しとおされた〉、十字架を暗示する究極の愛を示されました。神から愛していただくために私たちのできることは何一つないわけです。

弟子たちはすでに救われていた人たちでした。けれどもイエス様はあえて弟子たちの足を洗っておられます。それならば足を洗っていたかなくてもいいようなものですが、〈すでにからだを洗った者は、足のほかは洗う必要がない。全身がきれいなだから〉、弟子たちに対して全身がきれいだと言っているのは、すでに救われていることを意

味します。また洗札を受けることによって救いの確信が与えられていることもです。この当時、人の家に食事に招かれると、全身を洗ってから出かけました。しかし道で足は汚れるので、玄関で奴隷に洗ってもらいます。私たちも全身ではなく足だけはイエス様に洗っていただく必要があります。日々さまざまな汚れを受けており、生活の中でいろいろと罪も犯します。しかしその汚れや罪は、そのたびごとに悔い改めれば、イエス様の血によって洗いきよめていただけます。「御子イエスの血が、すべての罪からわたしたちをきよめるのである」(イヨハネ1・7)。

## 二、互いに足を洗い合う

イエス様に罪を赦<sup>ゆる</sup>していただいた人は、イエス様によって日々足を洗っていただくことができます。罪や汚れをきよめ続けていただけるのです。しかし今度は私たちがお互いに足を洗い合う番です。「わたしがあなたがたにしたとおり、あなたがたもするように、わたしは手本を示したのだ」、このあと弟子たちがお互いの足を洗い合ったとか、初代教会で洗足の儀式が始まったという記事は聖書にありませんが、彼らには鮮烈な記憶として残ったはずです。そしてお互いの間にやっかみや、いがみ合いや、さばく思い

が起きたとき、この出来事を思い出しては悔い改め、へりくだって隣り人に仕えて行ったことでしょう。そして歴世歴代の教会では繰り返し説教で語られたに違いありません。特にこの箇所は語られるだけでなく、神の家族の中で実践される必要があります。

## 結論

この出来事ほど、イエス様が説き、実践されたリーダーシップが記されたものはないでしょう。「あなたがたの間で偉くなりたいと思う者は、仕える人となり、あなたがたの間でかしらになりたいと思う者は、すべての人の僕とならねばならない。人の子が来たのも、仕えられるためではなく、仕えるためであり」(マルコ10・43-45)。人間は普通、何とかして人の上に立とう、人を動かそう、支配しようと思うもの。しかし神の国の価値観はより良く人に仕える人が偉い人です。私たちも身の周りの人が、イエス様とつながって自立し、成長できるように仕えるのです。また人の足を洗うとは、その人の間違いや弱さや罪をカバーしてあげることでもあります。これは特に家族の間で必要です。さて、あなたは誰の足を洗おうと決心するでしょうか。



## 研究資料

(宮澤清志)

## テキスト

1 この節は、13章以下の受難物語全体の序文と見ることができる。**過越の祭** ユダヤ人の三大祭りのひとつで、旧約聖書の出エジプトを記念して守った。神の救いの恵みのしるしとして行う重要な祭りであった。この日には、一歳の雄の小羊をほふり、その血を入口の柱と鴨居に塗り、肉を過越の小羊として食べた。この過越の小羊はキリストの型であり(ヨハネ1・29)、またこの祭には多くの人々がエルサレムに足を運ぶ祭でもあったことから、神はこの日をあえて選ばれてキリストの十字架の「時」(1)としたのであろう。**この世を去って父のみもとに行くべき自分の時** ヨハネにとって「死」とは、この地上での働きを終えて「父の家」に行く、という「旅」であり、我が家へと帰ることなのである。**世にいる自分の者たち** イエスを受け入れた、少数の信者の群れ、すなわち教会(エペソ5・25)。**最後まで愛し通された** 最後までという言葉は「極限まで」という意味と、「最後まで」という意味がある。新共同訳や新改訳では前者が、

口語訳では後者の意味が強く響く。

2 ここからが洗足物語の序論となる。

4〜5 この4節から、イエスの洗足物語の本題へと入っていく。この箇所では、イエスの洗足の情景を詳しく描写する。洗足は、古代では一般に奴隷の仕事とされてきた。しかも、イスラエルでは異教徒の奴隷にしかさせなかった仕事である。

6〜7 イエスの洗足が進み、いよいよその順番がペテロにくる。そのペテロが当然の疑問をイエスにぶつける。**あなたがわたしの足をお洗になるのですか** ここでは「あなた」と「わたし」が強調されている。「あなたのようなお方が」「わたしのような者の」足をお洗になるのですか、というような意味であらう。このみ言葉は、古来より多くのキリスト者が理解できない事柄について、解決の鍵を与えてきた言葉である。神の永遠のご計画、神が私たちに求めておられる意図は、聖霊を通してでなければ私たちは知ることはできないのである。同時にそれらを私たちが知ることは、神の「時」があるのである。**あとで** 真理の御霊(ヨハネ16・13)である聖霊の到来の後、という意味。

8 ペテロの次なる問い。ここでもやはり「わたしの」が強調され、「他の弟子たちの足はお洗いになっても、このわたしの足だけは…」というような意味になる。もしわたしがあなたの足を洗わないなら… このイエスの行為は、人間的な愛の行為ではなく、人となられた神の子としての奉仕なのである。この行為を頑として退けようとするペテロの行為は、イエスの差し出しておられる愛の手そのものを退け、彼の救いそのものを拒否したのである。

9〜10 ペテロはまだ、イエスの洗足が全身をきよくする象徴としての行為であることを悟っていなかった。だからひとたびイエスの救いに与り、その汚れを洗いきよめていただいた者は、全身がきよいのであって、今さら手や頭まで個別に洗う必要はない、というのである。

11 10節後半からは、イスカリオテのユダに関する言及がなされる。イエスはユダの裏切りを既に予見した上でこの言葉を語っている。では、私たちはこのイエスの言葉をどのように理解すべきであろうか。10節後半の言葉は、イエスのユダに対する愛と、ユダに対する救いの道、そして何よりユダへの悔い改めの機会を与えた言葉であ

ろうと思う。しかし、ユダは自らその道を閉ざしてしまったのである。

12〜15 12節以下は、イエスの洗足についての説話的部分である。「教師」「主」とは、単にユダヤ人の呼称というよりも、イエスへの神祕的告白であろう。「教師」「主」であるお方から最高の愛の奉仕を受けたしもべであるキリスト者は、同じ仲間であるしもべたちを愛する責任がある、というのである。キリスト教倫理の中心は、キリストご自身の模範に生きることである。「わたし(主)」があなたがたにしたこと(12)を悟り、「わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするように」というイエスの「手本」(15)に従って歩むことが、キリストのしもべとして生きる者の道であるというのである。

参考図書 A. T. Robertson 「Word Pictures in the New Testament」(Broadman)、ビ・エフ・バックストン「ヨハネ傳講義」(バックストン記念靈交会)、ジョン・C・ライル「ライル福音書講解 ヨハネ」(聖書図書刊行会) 他

## 聖書

ヨハネ13・1～15

## タイトル

洗足の恵み

## 暗唱聖句

もしわたしがあなたの足を洗わないなら、あなたはわたしとなんの係わりもなくなる。  
 (ヨハネ13・8)

## 目標

キリストの十字架の血による罪の赦しの恵みに生きる者となる。

## 導入

(水野晶子)

毎日、学校ではお掃除をします。一生懸命やっている子もあれば、友だちと遊んでいて、ちっとも掃除しない子もいます。先生が大切なお話をしている時に隣の人としやべっていたり、自分勝手なことをしていて、話を聞こうとしない人もいます。みなさんはどうですか？

## イエス様がなさったこと

イエス様の弟子たちも自分のことで頭がいっぱいで、すべきこともしないで、ざわざわした気持のまま、大切な食事会に出ていました。

その時です。イエス様は突然、立ち上がり、上着を脱いで、手ぬぐいをとって腰に巻き、たらいに水を入れま

した。ユダヤでは家に入る前に、身分の低い奴隷がこのスタイルで、家に入る人の足を洗いました。なんとイエス様が弟子たちのしもべとなって、足を洗い、手ぬぐいで拭き始めました。弟子たちは「誰が弟子の中で一番偉いか」と議論していたので、足を洗う奴隷の仕事など自分の仕事でないと思っていたのです。ところがイエス様が、一人一人に「あなたの足を出しなさい」と、埃にまみれた汚い足を丁寧<sup>ほろり</sup>に洗い始められたのです。

ペテロの番になった時、「主よ、あなたが私の足をお洗いにしますか?」「そうだよペテロ、わたしのしていることは今あなたにはわからないが、後でわかるようになるだろう」とイエス様が答えられました。しかしペテロは「とんでもないことです。私の足は決して洗わないでください」と断りました。するとイエス様は「もしもわたしがあなたの足を洗わないなら、あなたはわたしとなんの係わりもなくなる」と言われたので、今度はあわてて、「主よ、では、足だけではなく、どうぞ、手も頭も」とお願いしました。しかし、イエス様は「すでにからだを洗った者は、足のほか洗う必要がない。全身がきれいなのだから、あなたがたはきれいなのだ。しかしみんな

がそうなのではない」といわれ、ペテロの足も洗われました。イエスカリオテのユダの足も洗われました。ユダが悪魔に負けて、イエス様を裏切ろうとしていることを知りながら、足を洗われたのです。イエス様は、十字架にかかって死ぬ時が来たことをご存知でした。弟子たちと別れる時が来ていることを思い、イエス様の愛が弟子たちに伝わるように、十字架の死が何を意味するかがわかるように、奴隷となって足を洗われたのです。イエス様は罪がないのに罪人となって、十字架にかかれ、その流された血によってすべての人の罪が赦されることを示されました。

### 私たちのすること

イエス様は弟子たちの足を洗われ、再び席に着かれました。今度は、弟子たちの心が静まり、イエス様の言葉に耳を傾けることができました。イエス様は弟子たちに、「あなたがたもまた、互いに足を洗いあうべきである」と命じられました。イエス様が教師であり、主の主、王の王であるのに、へりくだって奴隷となって足を洗われたのです。ましてや私たちは、お友だちと競い、ねたんでお友だちを憎み、お友だちの悪口を言って裁いたりし

ないで、イエス様がなさったことを思い出し、罪をお詫びして、お友だちを受け入れ、愛していくことです。

### 主がなさったように

ある年の受難週に、ハワイで国際的な平和集会がありました。アメリカ、台湾、韓国、日本からたくさんの方が集まり、祈りの時を持ちました。木曜日にたくさんの方のバケツとタオルが用意され、バケツに水が入れられ、牧師先生が一人一人の足を洗いながら祈られました。足を洗ってもらっている人は泣いていました。日本の国は戦争で、ハワイ、台湾、韓国などの人々にひどいことをしました。その苦しみを体験した人たちもいました。しかし、その時、様々な憎しみや争いがイエス様によって赦され、涙ながらに互いに和解することができたのです。

イエス様が手で触れて分かるように、愛を表してくださいました。十字架の愛はとてつもなく大きく、すべての罪を赦し、いがみ合っている人間の心を、温かい愛で溶かすことができるのです。イエス様がなさったように、互いに愛し合い仕える者とならせていただきましょう。

♪イエス、イエス♪（こ改125）

# 聖書 ヨハネ14・27～31 テーマ キリストにある平安

## 序論

(石田高保)

台湾のクリスチャンの挨拶は平安(ピンアン)。イスラエルでの挨拶は「シャローーム」(平安)。かの国は常時戦時体制の中なので、平安、平和という言葉は切実に響きます。私たちも自分の心には平安を、そして人との間には平和を心から願うのではないでしょうか。

## 一、神との平和による平安

イエス様が天に帰ってしまったら、弟子たちは抛り手を失って、誰に頼つたらよいかわからなくなってしまうことを見越して主は「わたしはあなたがたを捨てて孤児とほしない」と約束します(18)。彼らが最も必要としていたのは心の平安です。そんな彼らに主は、〈わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える〉と遺言されます。主が弟子たちに残された遺産の一つは、〈わたしの平安〉です。この平安は〈世が与えるようなものとは異なる〉ものです。世が与える平安とは、順調な仕事、良い評価、良い成績、健康、家庭円満、財産、など。

しかしこれらによって支えられる平安は危ういもので、何が欠ければすぐに失われてしまいます。しかしイエス様の与える平安は、私たちの心を揺るがす出来事が起きても、決して揺るぎません。太平洋を進む船が台風遭遇すると山のような大波に揉まれて、生きた心地がしないそうです。しかし海面から20メートル下は、いつもどおりの静かな海だといいます。

## 二、平安を持つためには

ではどうしたらこのキリストの平安を身につけることができるのでしょうか。第一は、神様と正しい関係を持つことによります。人間が不安に悩まされるのは、そもそも神から離れているからです。「わたしたちは、信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストにより、神に対して平和を得ている」(ローマ5・1)、主の十字架によって勝ち取られた平和・平安です。人間の恐れの本質は、罪深いために、聖い神の前に立てない、裁かれる、永遠の死に定められていることを潜在的に知っている所にあります。しかしイエス様を受け入れることによってそこから救われ、神様との間に何のやましいこともなくなり、神の子として受け入れられ、永遠の命にあずかります。そ

れほどの親しい間柄だからこそ、日々の悔い改めによって神との関係を正しくし、平安をいただくことができます。

第二は、〈助け主：聖霊〉を心に迎えることによります。

聖霊は助け主・パートナーとして、私たちと一緒に働いてくださいます。私たちのほうは聖霊に自分の身を委ねるのです。聖霊が私たちの霊をキリストの平安によって防弾チョッキのようにガード（防御）していて下さいます。「あなたは全き平安をもつてころざしの堅固なものを守られる。彼はあなたに信頼しているからである」（イザヤ26・3）。イエス様の懷に飛び込んで、後はよろしくお願いしますと委ねれば、主の平安によって覆われるのです。また「何事も思い煩つてはならない。ただ、事ごとに、感謝をもつて祈と願いとをささげ、あなたがたの求めるところを神に申し上げるがよい。そうすれば人知ではとうてい測り知ることのできない神の平安が、あなたがたの心と思いとを、キリスト・イエスにあつて守るであろう」（ピリピ4・6～7）。

ですから私たちは自分に向かつて宣言しよう（心を騒がせるな、またおじけるな）と。みことばを口にすると、そこに助け主なる聖霊が働いて、イエス様からの語り掛けと

なり、私たちの霊が強められます。さて、いま思い煩っていることがありますか。どうしたら主の平安を回復できるでしょうか。

### 三、人との平和をもたらす平安

私たちの内にキリストの平安があると、人との間にも平和を造るようになります。私たちの信仰はそもそも、個人の安心立命のためだけにあるのではないからです。内なる平安が外に向かうと平和になると言われます。周りの人々にイエス様の平安をお分かちすることができのです。外に向かい人のために役立つ平安です。「平和をつくり出す人たちは、さいわいである、彼らは神の子と呼ばれるであろう」（マタイ5・9）、クリスチャンはピースメーカーです。馬が合う合わないでぶつかりやすい関係の中に、イエス様の平安を持つクリスチャンが一人いることによってその場が和らぐことがあります。助け主である聖霊が私たちと一緒に働いてくださるからです。

### 結論

ぜひ、人間関係の悩みを持ち込まれやすい存在となりましょう。さて、どういう関係の中で、どのように平和をつくり出させていただきたいと思えますか。



## 研究資料

(辻林和己)

ヨハネ13章から17章まで、「最後の晩餐」の席上とその後でなされた主イエスの弟子たちに対する告別の説教が記されている。14章では、主が地上を去る日の近いことを聞かされて動揺する弟子たちに主が「…心を騒がせないがよい」(1)と命じられ、ご自身が父なる神への道であることを語られる。さらに、主イエスの言葉を弟子たちに思い起こさせる助け主(聖霊)の派遣を約束された(26)。今回の箇所では、主イエスはご自身が世を去るに当たって弟子たちに「平安」を与える約束の言葉を語られる。

## テキスト

27 わたしの平安をあなたがたに与える 「平安」(ギエイレネー)はヘブライ語では「シャローム」。「シャローム」はユダヤ人の間では日常の挨拶でも使われる言葉である。ユダヤ人は何よりも望ましい幸いな状態、神の祝福を受けて互いに喜び合える状態を「シャローム」と呼んだ。主イエスがここで実際に使われた言葉も「シャローム」である。そしてこれはキリストによってなされ

る救いの結果、弟子たちに与えられる真の平安であるから主はそれを「わたしの平安」と言われる。それは世が与える平安とは違うことを強調される。心を騒がせるな14・1と同じ言葉をもう一度繰り返される。

28 わたしは去って行くが、…帰って来る 14・3、18 参照。わたしが父のもとに行くのを喜んでくれるであろう 27節の平安と共にここでは喜びが語られる。十字架の死と復活の後、主イエスが父なる神のもとに行かれることは、弟子たちにとって大きな喜びとなる。父がわたしより大いにかたである かつて「わたしと父とは一つである」(ヨハネ10・30)と言われた主がここではこう語られる。御子の派遣も、御子の帰還も、一切は父なる神のみ心と御計画の中にあるからである。人となられ、僕のかたちをとられた神の子の今の姿を父なる神と比較して語られた言葉でもある。

29 そのことが起らない先に 13・19参照。主イエスが十字架で死なれるとき。このことが起こるに先立って、主は弟子たちに語られ、そのときの悲しみと苦しみに耐えることができる希望を与えようされる。事が起った時に 主が復活され、父のみもとに帰られるとき。

30 多くを語るまい 主が語っておられる間にも、危機は刻々と迫っていた。この世の君 サタン（悪魔）のこ  
と。サタンが主イエスに最後の攻撃を仕掛けようとして  
いる。

31 しかし、わたしは父を愛していることを世が知るよ  
うに、わたしは父がお命じになったとおりのことを行う  
のである 父なる神を愛し、従順に歩まれる主イエスに  
対してサタンは何の力もない。立て。さあ、ここから出  
かけて行こう 一同が晩餐の部屋（二階の広間）から、  
この後すぐに出て行ったとすると、15～17章は、ゲッセ  
マネの途中で語られたことになる。一方、この言葉の  
後も、すぐに出かけないで同じ部屋で主が弟子たちに語  
り続けられたとする説もある。また「さあ、…出かけて  
行こう」と訳されている言葉（ギ）アゴーマン）には、「近  
づく敵を迎え撃とう」（サタンに）立ち向かう」とい  
う意味があるとして、主イエスが、今、悪魔に立ち向か  
い、その死に向かつて進もうと言われたとする説もある。  
主が去って行かれると聞き、「心を騒がせ、おじける」  
弟子たちに、主が残そうとされたのは、不安や恐れに打  
ち勝つ「平安」であった。ヨハネによる福音書では、27

節と同じ意味で、この語がもう一度、16・33で用いられ  
る。そのあとは、復活のキリストにより、「安かれ」（新  
改訳聖書では「平安があなたがたにあるように」と語ら  
れる（20・19、21、26）。このように主イエスが約束され  
た「平安」が完全に弟子たちに与えられるのは、主がサ  
タンに打ち勝たれ、十字架と復活の出来事によって、ご  
自身の愛を究極的に現されるときである。

私たちも、主イエスを信じ、心に受け入れるとき、聖  
霊が内に住んで下さり、御霊の実として「平和」が与え  
られる（ガラテヤ5・22）。ここでの言葉「平和」は、27  
節の「平安」と原語は同じ、（ギ）エイレネー）である。主  
が与えて下さる喜びと同様、キリストの平安は、誰も取  
り去ることはできない（ヨハネ16・22）。

参考図書 村瀬俊夫「ヨハネの福音書『新聖書注解』（い  
のちのことば社）、榊原康夫『ヨハネ福音書講解』（小峯  
書店）他

## 聖書

ヨハネ14・27～31

## タイトル

イエス様のくださる平安

## 暗唱聖句

わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。  
ヨハネ14・27

## 目標

どんな状況の中にもキリストからの平安を持って生きる。

## 導入

(松浦みち子)

皆さんは賢い人が建てた家と愚かな人が建てた家の話を聞いたことがありますか？ 賢い人は岩の上に自分の家を建てました。愚かな人は砂の上に自分の家を建てました。雨が降り、洪水が押し寄せ、風が吹き付けてきました。一方は倒れ、もう一方は倒れませんでした。さあ、どちらが倒れ、どちらが倒れなかったでしょう。

## イエス様のくださる平安

イエス様の下さる平安は、どんな嵐にあっても、倒れない、なくならない平安です。イエス様が「わたしはまもなく去って行く」と語られた時、弟子たちの心には不安と恐れが押し寄せ、どうしよう！と心が騒ぎ、おじけ

づいてしまいました。そんな時、イエス様は、「あなたがたに助け主、聖霊を与えます」と約束されました。さらに、「わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える」(ヨハネ14・27)と約束されました。

この世が与える平安は、すばらしく見えても不動のものではありません。嵐が起こると音を立てて崩れてしまう見せかけの平安です。自分の健康が損なわれたり、突然の災害で家や財産をなくしたり、生活の収入が絶たれたり、思いがけないことが起こってきますが、どんな時にも、ゆるがない「わたしの平安」は、み言葉に聞き従う時に与えられる、上よりの賜物としての平安です。

また、罪からの不安と恐れに対しても平安を約束されました。どんなに善行を積んでも、犯した罪は消し去られません。罪は罪として残るのです。罪は告白して赦されなければ帳消しにならない性質のものです。聖書に、「もし、わたしたちが自分の罪を告白するならば、神は真実で正しいかたであるから、その罪をゆるし、すべての不義からわたしたちをきよめて下さる」(1ヨハネ1・9)と記されています。御子イエスの血こそがわたしたちを

きよめ、罪の赦しと救いの平安を与えられるのです。わたしたちもイエス様を信じ、どんな時にもゆらぐことのない平安をいただいて、喜びの日々を過ごしましょう。

### 賛美歌「山路こえて」

この賛美歌は古い時代から多くの人に愛されてきた歌です。作詞者は西村清雄さんです。西村さんは一八七一年愛媛県松山に生まれ、青年の頃クリスチャンとなりました。同志社に入學し、勉強しましたが、途中でやめて松山に帰りました。宣教師ジャッドソン女史が創立した松山夜間学校の校長に就任し、62年間もの長い間一生懸命勤労青年の教育に全力を注ぎました。84才で引退し93才で召天しました。この賛美歌は、一九〇三年西村32才の時に、宇和島教会の伝道を終え、松山に帰る途中、一人淋しい山路を歩いていたら作られた歌です。

①山路こえて ひとりゆけど 主の手にすがる 身はやすけし ④道けわしく ゆくてとおし、こころさすかに いつか着くらん

作詞者が越えようとしているかわしい山路は、わたしたちひとりひとりの人生の道とたとえられています。途中で出会う嵐、越えなければならぬ流れなど。これら

はわたしたちに襲ってくる試み、悩み、病気でしよう。日が暮れると真つ暗になります。人生にも光の見えない暗闇の時があります。しかし、そのような時こそ「①主の手にすがる身はやすし」と歌われているように、イエス様のみに手に寄りすがって歩んでいくのです。そうするならば、この世のどんな嵐にも、暗く険しい道やどんな誘惑にも打ち勝っていく力が与えられ主の平安に守られて歩むことができるのです。「④こころさすかにいつか着くらん」わたしたちの人生の旅路には目的地がある事を忘れてはなりません。イエス様の言われたように自分の旅路の終りの目的地を選ばなければなりません。滅びに至る広い道は、永遠の死に定められています。しかし、反対にいのちに至る狭い道は、永遠の命が約束されています（マタイ7・13～14）。

皆さんの生活の中でもさまざまな事があるでしょう。勉強のこと、友だち関係のこと、親、兄弟のことなど。でも教会に来てイエス様に出会い、み言葉を信じて歩むなら、どんな時もゆるがないイエス様の平安が与えられて生きていけるのです。感謝ですね。

♪ひとあしひとあし♪（ふ32）

# 牧羊ひろば



## 横浜栄光教会 教会学校

横浜栄光教会では、日曜日の朝9時から30分程度の礼拝と、その後10時まで分級を行っています。小さい子でも礼拝中静かにお話を聴くことができ、聖句の暗唱にも積極的に取り組んでいるのがすばらしいところです。毎月第一週は、小学科と中高科合同の礼拝で、誕生会をしています。ちよつとしたお菓子(クッキー、プリン、アイスなど)があるので、楽しみにしている子どもが多いようです。その他の週の中高科礼拝は、主日礼拝と同じようなプログラムで行っています。分級は、こひつじ組(未就学児)、下級(小学校1〜3年)、上級(小学4〜6年)に分かれています。現在の平均出席人数は、こひつじ組6人、下級3人、上級3人、中高科はメンバーが入れ替わっての1名です。

それでは、一年間の楽しい行事を紹介します。

### ○イースター(3月または4月)

朝9時からの礼拝に続いて、ゲームをします。卵ボール(卵に似た形の白いボール)を使った「卵探し」、「卵ボウリング」(ペットボトルを倒す)、「卵運びリレー」(スプーン・お玉で)など、毎回楽しい企画をしています。「卵探し」の代わりに、「魚(カード)探し」にしたこともあります。復活されたイエス様が一番はじめに食べたものを印象づけることができました。卵アレルギーに配慮して、景品はお菓子にしています。イースターが4月の場合は、新しい子どもたちが増えて、定着しやすい傾向にあります。

### ○花の日訪問(6月)

「花の日」の午後、近くの高齢者福祉施設を訪問しています。給水スポンジ入りの容器(ヨーグルトカップ)に子どもたちが生けたお花をプレゼントし、同じカップと切り花を持参して、施設でも高齢の方々に生けていただきます。子どもたちがさんびし、一緒に「ふるさと」を歌い、牧師が短くメッセージを語ります。子どもたちの訪問やお花をととても喜んでくださり、定着してきました。

た。人生の終盤におられる方々の心が神様にむけられるようにと願って取り組んでいます。

### ○サマーキャンプ（7月下旬）

日曜日の午後から始まり、一泊して月曜日の午前まで行っています。宿泊場所は、教会の屋根裏と牧師館です。

参加する子どもは20人前後、宿泊する子どもは15人前後です。「はじまりの礼拝」でテーマの導入をし、2回の集会と分級、「おわりの礼拝」は子どもたちの生活につながるまとめですが、今年初めて決心の発表の持ち、聞いているこちらが恵まれました。いつも工夫しているのが、テーマにちなんだゲームです。「モーセ」のときは新聞



2016サマーキャンプ

紙で作った部屋いっぱい巨大迷路をクリアするゲーム、「ザアカイ」に法外な税金を取られる買い物ゲーム（ザアカイが嫌われる理由がわかります）、「ノア」のときは、動物になって鳴き声だけで相手を探し、ペアで箱船に入るゲームでした。プログラムの中でも、特に人気があるのは花火です。それぞれが手持ち花火で楽しんだ後、噴き上げ花火を見学します。歓声が上がリ、みんな大興奮です。またキャンプ中に工作をしますが、同じものを教会の「恵老」（75歳以上）の方々へのプレゼントとして作ります。カード、うちわ、小物入れなど心のこもった手作りの品は大変喜ばれています。

### ○収穫感謝祭（11月）

神様がわたしたちに与えてくださる恵みに感謝して、「食べ物」に関わるイベントをしています。自分で握ったおにぎりでお弁当を作って食べたり、フルーツを収穫するゲームのあとカットして食べたり…。子どもたちは食べるのが大好きで、毎年楽しく取り組んでいます。アドベントカレンダーをプレゼントして、クリスマスにつなげています。



## ○こどもクリスマスお祝い会（12月第二日曜日）

数年前、子どもの参加人数をもっと増やすために、教師会で問題点を洗い出して話し合いました。問題点として、1時半の開始時間に遅れてくる子どもが多いこと（プレゼントねらい？）、レギュラーメンバーが少なくなっ

て降誕劇の実施が難しくなったこと、最近の子どもたちはプレゼントに対する要求水準が高く満足感が得られにくいこと、小学校でのチラシ配布が難しいこと、などがあがりました。対策を考えるにあたって、クリスマスはみんなで礼拝することが大切だということをまず確認しました。全体の時間を短縮して、礼拝を一番最後にささげることにしてからは、参加した



2015クリスマス

子どもたち全員が心静かにメッセージを聴くことができるようになって感謝しています。年ごとに内容を変えながら実施していますが、いくつかの例を紹介しますと、「ケーキを作って食べよう！」を加えたときは、大好評でした。降誕劇を、場面ごとに写真を撮って、プロジェクトで写しながらセリフを言う形にすると、一人でも役役もできますし、とてもスムーズでした。プレゼントは、クリスマスビンゴや、宝探しなどのゲーム性を加味したり、教会グッズでプレミアム感をだす工夫をしました。分級ごとにお遊戯や合奏の発表をしたときは、保護者の方々が見に来られて喜んでおられました。小学校の校門前でのチラシ配布は、学校側からの苦情を受けて、少し離れたところで子どもたちの安全に配慮しながら配布することにしました。また近くの公園2か所でもチラシ配布を始めました。さまざまな取り組みにより、少しずつ参加人数が増えています。

## ○おもちつき（3月）

とても人気のイベントです。石臼と大・小の杵、蒸し器などの備品も充実し、回を重ねる事に手順もスムーズ

になってきました。

「よいしょ、よいしょ」とみんなで声をかけながら、ひとりずつ順番におもちをついていきます。つきたての柔らかいおもちに、いちごやあんこを詰めたり、海苔やチーズを巻いたり、砂糖醤油やきな粉をつけたりしていただきます。保護者の方も楽しそうに参加しています。

### ○修了式(3月)

一年の出席日数に応じて表彰式があります。ごほうびのプレゼントをもらうためにがんばった子どもたちの晴れ舞台です。昨年度は皆勤賞1人、精勤賞3人、努力賞4人でした。クリスチャンホームの子女や、ミッシヨン



2016おもちつき

スクールからの勧めで来ている子どもたちが定着しています。

月に一度の教師会では、来月分の教案の学びをして大切なポイントを確認したり、子どもたちの状況を報告して共通理解を深めたりしています。

今後の課題として、高校を卒業した生徒たちが定着するように、クリスチャンホームの子女がしっかりと信仰を継承するように、また、献身者第一号が与えられるように、教会をあげて祈りつつ励みたいと願っています。

(小岩喜代美)



2016進級式

# キリストと共に生きる

ヨハネ15・5

## ●旧約⑨詩歌

行事	テーマ	聖書	暗唱聖句
1月1日 新年礼拝	わが助けはどこから	詩篇121・1～8	同1・2節
8日	ヨブ	ヨブ1・1～22	同21節
15日	実を結ぶ生涯	詩篇1・1～6	同2節
22日	主はわたしの牧者	詩篇23・1～6	同1節
29日	若い日に造り主を覚えよ	伝道12・1～14	同1節

## ●神の国

行事	テーマ	聖書	暗唱聖句
2月5日	イスラエルを治める者	ミカ5・2～5 a	同2節
12日	神の国は近づいた	マルコ1・14～15	同15節
19日	神の国は私たちに	ルカ17・20～21	同21節
26日	神の国の完成	黙示録21・22～22・5	同23節

## ●十字架への道

行事	テーマ	聖書	暗唱聖句
3月5日	最大の愛	ヨハネ15・12～17	同13節
12日	一粒の麦として	ヨハネ12・20～28	同24節
19日	洗足の恵み	ヨハネ13・1～15	同8節
26日	キリストにある平安	ヨハネ14・27～31	同27節

## おわりに

『牧羊者』二〇一六年度第Ⅳ巻をお届けできますことを感謝します。また、執筆者のご労苦に感謝いたします。教師養成講座は金井望師に「教会学校のリバイバルを求めて」を執筆していただきました。「牧羊ひろば」は横浜栄光教会のCSを紹介していただきました。今号の執筆者、奉仕者を紹介いたします。

## 『牧羊者』のご購読・ご利用について

\* 分級用に、ワークA(幼稚園向け)、B(主に小学生1～3年生向け)、C(主に小学生4～6年生向け)を用意しています。また、付録として「子ども聖書日課」、「フラッシュカード」、「み言葉カード」、「中高科へのヒント」があります。いずれも、下記ホームページから無料でダウンロードできます。送付ご希望の方には、ワークは各600円+税でお送りします。  
信徒局 教会教育室 ホームページ  
<http://cs.jccj.info/>

\* ご注文は、日本イエス・キリスト教団(事務局)まで。申込み、部数変更等のための用紙も、上記ホームページからダウンロードできます。  
神戸市兵庫区塚本通3-3-19  
電話 (078) 575-5511  
FAX (078) 575-6611

### 聖書講解

### 研究資料

### メッセージ例

### ワーク

(A)  
(B)  
(C)

中高科へのヒント  
子ども聖書日課  
フラッシュカード

み言葉カード  
イラスト

ワープロ打ち込み  
校正

石田高保師 小泉 創師 高橋頼男師

金井信生師 大頭真一師 金井 望師

中島啓一師 小平徳行師 金井由嗣師

宮澤清志師 石田高保師 中島啓一師

辻林和己師 和田 治師 飯田勝彦師

松浦みち子師 土屋開夫師 後藤 真師

水野晶子師 吉田美穂師 佐川直実師

鎌野 幸師 三輪直子師 勝田幸恵師

山下大喜師 田中裕明師 勝田幸恵師

竹崎光則師 三輪正見師 小野淳子師

上森恭子師 田中愛子師 松浦あん師

後藤健一師 金田ゆり師 後藤栄子師

丹羽 遥姉 丹羽 遥姉 丹羽 遥姉

多田豊子師 中島啓一師 山田和幸師

長田栄一師 加藤 清師 山田和幸師

また、事務作業・発送の教団事務所の兄姉、印刷の松木共栄印刷、菱三印刷に心から感謝いたします。(中島啓一)

## 聖書教育教案誌 牧羊者

二〇一六年度 Ⅳ巻

二〇一七年一月一日発行

発行所 日本イエス・キリスト教団 信徒局 教会教育室  
企画監修 日本イエス・キリスト教団 信徒局 教会教育室

電話 (078) 575-5511  
FAX (078) 575-6611

印刷所 菱三印刷株式会社  
電話 (078) 575-6611

\* 日本聖書協会「口語訳聖書」使用許諾済み